

第 2 回 館 山 市 議 会 定 例 会 会 議 録

( 第 2 号 )



1 平成8年6月14日（金曜日）午前10時

1 館山市役所議場

1 出席議員 25名

1番 辻田 実	2番 本橋 亮一
3番 三上 英男	4番 小幡 一宏
5番 忍足 利彦	6番 鈴木 順子
7番 斉藤 実	8番 増田 基彦
9番 島田 保	10番 宮沢 治海
11番 秋山 光章	12番 植木 馨
13番 脇田 安保	14番 永井 龍平
15番 山崎 雅己	16番 鈴木 忠夫
17番 岩村 勝弘	18番 日下 君敏
19番 川名 正二	20番 神田 守隆
21番 山中金治郎	22番 榎本 春光
23番 石井 昌治	24番 福原 勤
25番 飯田 義男	

1 欠席議員 なし

1 出席説明員

市長 庄司 厚

収入役 永野 修

総務部長 鈴木 完二

経済環境部長 小沼 晃

水道課長 谷貝 実

監査委員 山田 教和

農業委員会会長  
職務代理者 黒川市之助

助役 小幡 清之

企画部長 寺嶋 清

市民福祉部長 渡辺 富雄

建設部長 鈴木 信一

教育委員会  
教 育 会長 高橋 博夫

監事 査 田村 哲也  
事務局 局長

農業委員会  
農 業 委員長 木高 松雄  
事務局 局長

1 出席事務局職員

事務局長 兵藤 恭一

事務局補佐 鈴木 哲

書 記 四ノ宮 朗

書 記 島本 一樹

書 記 鈴木 達也

書 記 松浮 郁夏

# 1 議事日程（第2号）

平成8年6月14日午前10時開議

## 日程第1 行政一般通告質問

開 議 午前10時10分

◎議長（辻田 実君） 本日の出席議員数25名、これより第2回市議会定例会第2日目の会議を開きます。

本日の議事はお手元に配付の日程表により行います。

### 議長の報告

◎議長（辻田 実君） この際申し上げます。

本日の会議の説明員として、黒川農業委員会会長職務代理者が出席する旨報告がございました。

### 行政一般通告質問

◎議長（辻田 実君） 日程第1、これより通告による行政一般質問を行います。

締め切り日の6月10日正午までに提出のありました議員、要旨及びその順序はお手元に配付のとおりであります。

これより順次質問を行います。

この際申し上げます。通告質問者は以上のとおりであり、他に関連質問等の発言もあろうかと思いますが、本日は通告者のみといたします。発言の方法は、最初の発言を20分以内とし、執行部の答弁は時間外、再質問は答弁を含めて30分以内といたします。

これより順次発言を願います。

6番議員鈴木順子さん。御登壇願います。

（6番議員鈴木順子君登壇）

◎6番（鈴木順子君） おはようございます。私は通告をいたしました3点について御質問申し上げます。

まず第1点目の質問でございますが、このたび発覚をいたしました館山市元収入役2人によりますN T T株の購入について、さまざまな問題点につきましての質問をさせていただきます。私は、市執行部より5月7日、議会全員協議会におきましてこの件について報告を受けたわけです。率直に申し上げて、事の次第を聞いたときは我が耳を疑り、そしてその日の夜からマスコミ報道を受けての市民の反応、非常にすさまじいものでありました。現在でも、会う人々からは本当に合い言葉のように、株の問題はどうした、どうするんだ、もう税金払うの嫌になっちゃったよという声、そういった声の連続であります。また、私たち議員に向けても、毎年決算審査をしていたのに何をやってたんだというようなおしかりの声もお聞きをしております。まさに私はそのとおりだというふうに思っておりますが、そう思うのは私だけではないはずでございます。なぜ決算でもこのことが見過ごしをされてきたのか、明らかにしていかなければならないと思っております。

そこで私は、市民に答えるためにも、今回の問題がなぜ起きたのか、具体的にお答えをいただきたいと思っております。いま一度市民の前に、問題がいつ発覚をしたのか、どういう状況の中でわかったのか。また、議員はもとより、マスコミ各社に公表されたわけですが、その間どのような作業が行われておったのでしょうか。N T T株を2代の元収入役がなぜ買うことに至ったのでしょうか、把握をしておりますでしょうか。また、監査請求をお願いをしたと聞いておりますが、いつ監査作業に入られたのでしょうか。私の記憶では、既に1カ月以上が経過をしているのではないかとおもわれますが、議会初日、監査作業中と市長が言われました。この監査はいつ終了するのでしょうか。また、市の現金の管理はどのようなお考えで日常対応されていらっしゃるのか、基本的なことですが、この際お聞かせをいただきたいと思います。

次に、2点目の質問をいたします。館山市の老人保健福祉計画について伺ってまいります。着々と高齢化が進んでいる現実がせんだって明らかにされ

ました。安房郡の町村の高齢化は、県内でも昨年と同じでトップから2、3、5、6位を占めております。当然、館山市でも同様に22.62%という数字が4月1日現在で出されておるわけです。したがって、館山市を含めて郡内各自治体で行う老人保健福祉計画での各事業の必要性は大変大きく膨れ上がってきているのが現状ではないでしょうか。まさに必要に迫られていると言っていきたいと思います。

今年度は老人保健福祉計画の見直しがされる年度であります。7年度末の計画達成率は非常に低く、最大必要サービスと言われたホームヘルパーの確保が大きくおくれており、達成見込みの22.6%という数字が出されております。また、一昨年厚生省から出されました老人保健福祉マップの中では、在宅福祉制度の利用率が千葉県は全国一低いと言われております。既にこのことを重く見た県ではそれぞれの場でサービスの普及啓発を進めているとお聞きをしております。館山市では、広報にコーナーを設けての啓蒙活動、そのほかさまざまなサービスの利用率アップにつながってきていると私は認識をしております。過日、県で老人保健福祉計画の達成状況を調査し、集計しているとお聞きをしました。具体的な達成率は今現在私は把握をし切っておりませんが、一部の意見といたしまして、県北の自治体では非常に達成状況が悪いけれども、県南地域、特に安房郡の各自治体の達成率は非常によいのだとの意見をお聞きをしたところです。そういう状況にある中、我が館山市でも今年度は計画の見直しがされるわけですが、見直しの作業はどのように行われる予定でしょうか。いつごろから行うのか、具体的にどういう方法でそれは行うのでしょうか、お伺いをいたします。

次に、第3点目の質問をいたします。現在は廃止をされております旧豊房育成牧場の跡地についてお尋ねをいたします。私は過日、市民の方よりこの育成牧場跡地に開発問題が起きているとお聞きをいたしました。近隣には神余、作名ダム、浄水場がありまして、大変心配をしているとの相談を受けたところです。もしこの開発が事実であれば、市民の大切な生活水であるダムを抱えている地域ですので、近隣住民はもとより、市民にとりましてとても大切な問題となるわけです。育成牧場として活用をしていた土地は多くの

地主さんから借りて運用をしていたと思いますが、この牧場閉鎖後の土地は現在どうされましたでしょうか。また、牧場跡地に開発の動きがあるかどうかお聞きをできますでしょうか、お答えをいただきたいと思います。

以上質問をいたしました、御答弁によりまして再質問をいたします。

◎議長（辻田 実君） 庄司市長。

（市長庄司 厚君登壇）

◎市長（庄司 厚君） ただいまの鈴木順子議員の御質問にお答えいたします。

大きな第1、株の購入についての御質問でございますが、N T T株につきましては、昭和62年11月12日に 110株、昭和63年10月21日に50株、計 160株を購入し、その後、平成7年10月1日に 3.2株の無償交付がありましたので、現在 163.2株を保有しております。

また、公表までの経過についてでございますが、現収入役から提出されました報告書及び関係書類によりまして事実を確認いたしましたので、地方自治法に基づきまして、監査委員に対し監査請求を行うとともに、館山市議会全員協議会に報告したところでございます。

次に、大きな第2、老人保健福祉計画についての御質問でございますが、計画の見直しにつきましては、現在国におきまして公的介護保険制度の検討がなされておりまして、その結果を踏まえ、見直しの時期等が国から示されることになっておりますので、今後の国の動向を見守ってまいりたいと考えております。

次に、大きな第3、豊房育成牧場跡地についての御質問でございますが、現在の土地の状況は、牧場として使用していた当時とほぼ同じ状態でございます。

開発の計画を聞いているかとの御質問でございますが、土地所有者が豊房育成牧場跡地利用促進協議会を設置いたしまして跡地利用の計画をしていると伺っております。

以上でございます。

◎議長（辻田 実君） 6番鈴木順子さん。

◎6番（鈴木順子君） それでは、再質問をさせていただきます。

今市長からN T T株の件についての経緯、経過をお聞きをいたしました。これは私どもが全員協議会でお聞きをしたときと何ら変わりがないお言葉であるわけなんです、実際にもうかなりの月数がたっているということをお頭に置きまして、幾つかの質問をさせていただきたいと思います。

私は、市でお金 — お金というか、現金の保管についての考えなんですけれども、保管方法としては、元金保証をされているものが原則であって、変動のあるものについては行わないという考え方が一般的というか、常識であるというふうに言われております。そういった立場を踏まえた上で、収入役という立場でどうしてその常識を破ることをしたのかということをお聞きをしておきたい。この件について把握をなさっているのかどうか、その件についてぜひお聞きをしておきたいというふうに思います。

◎議長（辻田 実君） 永野収入役。

◎収入役（永野 修君） 監査請求をいたしまして、事実の確認を今しているわけでございますけれども、私が引き継ぎを経てから本人に事情聴取をした段階では、収入役として、いわゆる現金の保管でなるべく利子をたくさん稼ぎたい、そういう趣旨で、結果としてこういう事実になったというふうに把握をいたしております。

◎議長（辻田 実君） 6番鈴木順子さん。

◎6番（鈴木順子君） 少ない財政ですから、それをふやしたいという単純な発想というか、それはわかるんですけれども、ただ、収入役という立場でありながら、一般常識というか — 本当にプロなんです。そういった人がなぜそういうふうになったのかなということ。今監査中ということでもありますけれども、やはり私たちもどうしてなんだろうなというふうなことをあえてお聞きをしていかなきゃいけませんので、それは率直に言って、監査中だからということではなくて、できる限りのお答えをこれからの再質問の中でもいただきたいというふうに思うんですが、また別な角度から — 私たち議員は毎年の決算審査をやっているわけです。そして、監査委員の方は毎月の監査、これを当然しているわけなんですけれども、どうして8年間もわからな



かったのか、具体的に書類の中で操作が行われていたのかどうなのかということ、今お答えをぜひいただきたいと思います。

◎議長（辻田 実君） 鈴木総務部長。

◎総務部長（鈴木完二君） 9年間あるいは8年間にわたりましてこの事実が監査で判明しなかったということにつきましては、株の購入の事実が現先取引の中に隠されていたということで、監査によっても判明しなかったということでございます。

◎議長（辻田 実君） 6番鈴木順子さん。

◎6番（鈴木順子君） 隠されていたということなんですけれども、きょうはほかの議員の方もさまざま――4人ですか、この件についての御質問をいたしますので、私の質問したいことを時間制限がある中でしたいと思いますので、若干先に進んでいきたくと思いますが、このNTT株の購入をしたという行為、だれの判断で行ったのか聞いておりますでしょうか。これは、先ほど元収入役が少しふやしたいというような発言がございましたけれども、率直に言って、収入役の判断だけで行ったとは私は思えないというふうに思うんですが、この件はどうでしょうか。

◎議長（辻田 実君） 鈴木総務部長。

◎総務部長（鈴木完二君） だれの判断で行ったか聞いているのかということでございますが、この点につきましては、現在監査をお願いしているところでございまして、監査報告を待つ状態でございます。

◎議長（辻田 実君） 6番鈴木順子さん。

◎6番（鈴木順子君） 監査中ということで、肝心なことが聞けないということであれば非常に問題なんですけれども、一体監査の作業はいつ終わるんですか。

◎議長（辻田 実君） 山田監査委員。

◎監査委員（山田教和君） 今後、賠償の有無、賠償額について十分調査の上、できるだけ早い時期に市長に報告する予定でございます。

◎議長（辻田 実君） 6番鈴木順子さん。

◎6番（鈴木順子君） できるだけ早い時期ということで、非常にあいまい

なんですけれども、一体いつまで待てばいいんだろうな、率直にそういうふうに思うんです。きょうせっかく議会という場が開かれ、市民の負託を受けた私たちが聞けるという日なんです。その日に監査中ということで肝心なことが聞けないということであれば、非常に私としては困ったなという率直な思いなんです、それでは考え方について少しお聞きをしていきたいというふうに思うんですが、今回のNTT株の購入について、違法であるというところをたしかしていらっしゃる。そうですね。違法ですね。

◎議長（辻田 実君） 鈴木総務部長。

◎総務部長（鈴木完二君） 現金の保管方法として、株の購入、保管は違法であるというふうに考えております。

◎議長（辻田 実君） 6番鈴木順子さん。

◎6番（鈴木順子君） それでは、違法である株を買ってしまったということが発覚いたしました。そのNTT株、今現在どうなされましたか。

◎議長（辻田 実君） 永野収入役。

◎収入役（永野 修君） 現実には今 163.2株保有をいたしております。

◎議長（辻田 実君） 6番鈴木順子さん。

◎6番（鈴木順子君） 違法であるという認識であるならば、早急な対応をしていかなければいけないんじゃないでしょうか。違法だとおっしゃるNTT株、持っていていいんですか。

◎議長（辻田 実君） 鈴木総務部長。

◎総務部長（鈴木完二君） 現在株の保有自体が違法な状態に置かれておりますことから、国、県等の指導を受けまして、その処理を早急につけるよう検討をしているところでございます。

◎議長（辻田 実君） 6番鈴木順子さん。

◎6番（鈴木順子君） やはりこれは違法であるという認識をお持ちであるならば、素早く処理をしていただきたいというふうに思います。これをできない何か理由というか、おありになるのかどうなのか、それをちょっとお聞かせください。

◎議長（辻田 実君） 鈴木総務部長。

◎総務部長（鈴木完二君） 株の処分に当たります会計処理上の問題で現在、先ほどお話しいたしましたように、国あるいは県の指導を仰いでいるところでございまして、その辺が明確になり次第処分することを考えておるところでございします。

◎議長（辻田 実君） 6番鈴木順子さん。

◎6番（鈴木順子君） 確かに8年前にさかのぼって、この株を買った元収入役——2代にわたってですよ。それと、それをまた見過ごしてきた収入役、非常にこれも問題があると思うんですけれども、現実には今市の業務には携わっていないわけですから、正直申し上げて、後始末をしている人たちにとっては大変な作業をしているというふうに思うんですけれども、しかしやはりこれは、指導を受けてということなんですけれども、率直に申し上げて、早くこの株は処分するのが当たり前じゃないかというふうに思いますので、これは強く指摘をしておきたいというふうに思います。

そして、また別の角度からなんですけれども、監査のあり方なんですけれども、各自治体によりまして——私が聞いたところによりますと、ある自治体においては、監査をする方の中に専任でプロの方をお願いしているというところもあるというふうに聞きました。今後このようなことがありますと——やはりあってはならないわけですから、専任のプロをお願いするという方法も一つの方法ではないか。というのは、きちんと点検をできる体制を今後考えていかなければならないのではないかというふうに思うんですが、それがひいては今後の再発防止につながるのではないかというふうに思うんですが、その件についてはどうお考えになっていますでしょうか。

◎議長（辻田 実君） 鈴木総務部長。

◎総務部長（鈴木完二君） ただいま監査のプロをというようなお話でございましたが、現在国の地方制度調査会で外部組織としての監査機関を新たに設ける制度の検討がなされているところでございます。再発防止のためというお話でございしますが、この制度自体が、現在あります監査委員の制度との役割分担でございしますとか、あるいは外部監査の対象を財務に限定するのかどうか、あるいは市長からの監査請求や住民監査請求を対象とするのかとか、

そういったいろいろな問題を含んでいるというふうに聞いております。したがって、国の検討の動きを注目してまいりたいというふうに考えております。

◎議長（辻田 実君） 6番鈴木順子さん。

◎6番（鈴木順子君） 県の地方課のお話も一部新聞報道されておりましたけれども、こういったことは聞いたことがないというような新聞報道がなされていまして。それだけ大変なことをしたということなんですけれども、やはりこれは我が市として、してしまったことの教訓をいかに今後生かしていけるかというような——逆に見れば、それを率先してやるべきではないかというふうに思いますので、今後それはぜひ執行部の方でも考えていただきたいというふうに思います。

私はきょう、市執行部よりこの件についての考えを伺うということで、事実の確認をするためにここに立っているわけなんですけれども、私も議員といたしまして、市民にこの件の真相を明らかにしていかなければならないということがあるわけです。また、その責任、だれが責任をとるのかということも含めまして明らかにしていかなければならない、これが議員のとるべき姿、道であるというふうに私は思っています。きょうのこの制限をされました時間の中で、時間内でのやりとりの中ではそれもなかなかかかいませんので、既に私は議長には申し入れをしてございますが、議会におきまして事の真相を明らかにするために百条委員会の設置を求めているというふうに思います。

そして、一つだけちょっとこの件について再質問を逃したんですが、お聞きをしておきたいことが一つだけあえてあります。株ということなんです、株を買ったときには配当金がございますよね。これはどういうふうに処理されていたのか、これはぜひ聞いておかなきゃいけないんですが。

◎議長（辻田 実君） 永野収入役。

◎収入役（永野 修君） 配当につきましては、保管振替制度というのが——平成3年の10月に法律ができて、自分の名義でなくても配当がもらえるという法律ができました。それで、平成4年の上期から配当をいただい

ております。それまでは配当はいただいております。

◎議長（辻田 実君） 6番鈴木順子さん。

◎6番（鈴木順子君） 配当をいただいているということなのですが、それは処理上どういうふうにされていたんですか。

◎議長（辻田 実君） 永野収入役。

◎収入役（永野 修君） 利子として処理をいたしております。

◎議長（辻田 実君） 6番鈴木順子さん。

◎6番（鈴木順子君） 非常にいい問題を私は引き出しましたので、後の議員の方々にまたその点についてもぜひ質問をしていただきたいというふうに思います。

この件は、先ほども申し上げましたように、到底私はこの場でいろんな真相を明らかにしていくということは望めないというふうに判断をいたしました。やはり議員といたしまして、自分も見過ごしてきたんではないかというような気持ちもございます。そういった中で、やはり議員として、先ほども申しましたように、ぜひ同僚議員の方にも御協力いただいて、百条委員会の設置を求めているというふうに思います。次の質問もございますので、この件については終わります。

2番目の質問なんですけれども、老人保健の福祉サービスについてなんですが、私は正直申し上げて——見直しをするということは決まっているわけですね。その中で、今ここに至って、国の動向を見るということではなくて、もっと前向きな答えがぜひいただきたかった。いつごろから聞き取り調査をするんだとか、そういう具体的なお答えをぜひいただきたかったなというふうに率直に思います。

老人保健福祉計画がスタートいたしましたから現在までの達成状況はとっていると思うんですが、項目はたくさんありますが、これをやっていると時間が来ちゃいますので、若干私の聞きたいところ、サービスについて、現状をちょっといただきたいというふうに思うんですが、施設面、在宅面の2つに分けて、特養老人ホームがどうなっているのか。ケアハウス、館山に1カ所つくるとなっていましたけれども、どうなっているのか。あと、老人

保健施設、これはどうなっていますか。あと、在宅サービスの方なんですが、ホームヘルパーさん、現在何人ですか。デイサービス、B型が現在1カ所、これ2カ所というふうになっていますよね。どうなっていますか。ショートステイ、これどうなっていますか。在宅介護支援センター、これはありませんでしたが、1カ所つくる。これはどうなっていますか。以上、この項目についての御答弁をいただきます。

◎議長（辻田 実君） 渡辺市民福祉部長。

◎市民福祉部長（渡辺富雄君） 平成11年度の計画目標値に対する平成7年度末の達成状況という御質問でございますけれども、それにあわせて、当面整備計画をしてございます内容を含めてお答えをさせていただきます。

初めに、施設整備関係でございますけれども、3施設ということでございますけれども、この施設関係につきましては、安房地域老人保健福祉圏域施設整備計画、そういったことでとらえてその整備を進めております。特別養護老人ホームにつきましては、圏域内で整備を必要とされている150床のうち、現在丸山町、和田町の両地域で各50床ずつ、合計100床の計画が進められております。次に、ケアハウスにつきましては、圏域内で整備を必要とされている180床のうち、丸山町地域に建設が予定されている特別養護老人ホームの中に15床を併設される予定でございます。もう一つの施設関係でございますけれども、老人保健施設、これにつきましては、圏域内で整備を必要とされている410床のうち、鴨川市内で100床の1カ所を整備済みでありまして、また現在館山市内で119床、1カ所の整備計画が進められております。

次に、在宅福祉関係でございます。まず、ホームヘルパーの目標量は、館山市では、これは常勤換算で54名となっています。それに対しまして、平成7年度末で12名。これは、実は非常勤が15名、それを常勤換算で12名としております。そういった達成率で、達成率は22.2%でございます。現在ホームヘルプサービスにつきましては、派遣の要望、それはすべて達成をしております。派遣の要望に基づいて派遣しておるという実態でございます。なお、平成8年度に2名増員をいたしました。次に、デイサービスセンターにつきましては、施設整備費の助成等によりまして、民間老人福祉施設の誘致を推

進してまいりたいというふうに考えております。次のショートステイにつきましては、これは目標量が 1,456回でございますが、これに対しまして現在 509回で、達成率35%でございます。最後に、在宅介護支援センターにつきましては、館山市内で整備計画が進められている老人保健施設に併設を予定しております。

以上でございます。

◎議長（辻田 実君） 6番鈴木順子さん。

◎6番（鈴木順子君） かなり着々と計画が進められつつあるというところなんでしょうけれども、まだ県の方では統計というのは——私ごときがお願いしても、なかなか統計はいただけないものですから、独自に計算をさせていただいたんですが、計算ミスでなければ、安房地域の達成率はちなみに26%程度であったというふうに思います。県北の方が半分以下ですので、非常にそういう点では頑張っている。でも、これは考えてみれば、確かに一部言われるように、別なとらえ方をすれば、頑張っているというふうには言えないわけですが、でもそういう一生懸命やろうとしている姿勢は評価をしていきたいというふうに思います。この問題は引き続き質問をさせていただきますので、次回にでもまたお願いをいたします。

時間がちょっとありませんので、最後の質問なんですが、育成牧場の跡地の問題なんですが、これは問題の土地なんですけれども、同じ状態であるというふうにお聞きをしました。そして、協議会を設立されて、利用計画を確かに出されている、聞いているというふうにお答えをいただいたんですが、ここに一部残土を持ってくるんじゃないか、残土を埋め立てするんじゃないかというふうに聞いているんですが、その辺はどうなんでしょうか。聞いていますか。あるいは許可願のようなものが出ているんでしょうか。

◎議長（辻田 実君） 小沼経済環境部長。

◎経済環境部長（小沼 晃君） 残土を埋め立てる話を聞いているかという御質問でございますが、これは事業者の方から、森林法に基づきまして、林地開発の許可申請に必要な——下流にあります神余ダムの管理者であります館山市に対しまして同意を求めてきたことにより、承知をいたしております。

以上です。

◎議長（辻田 実君） 6番鈴木順子さん。

◎6番（鈴木順子君） 神余ダムの管理者の方からというふうにお聞きを今しましたが、その住民の方々が非常に危惧していることは、もしここに――残土なのか産廃なのかということがはっきりしません。そして、正直言いまして、残土、産廃、どう違うんだ。また、残土で許可しても、実際には残土の中に産廃がまじっていたというような話もいろんなところで聞いています。いろんなところで問題を起こしている。残土ということで、安全性があるというふうには言われておりますけれども、たしか残土はどこからそれをお持ちになったのかというような証明書か何かが必要ですよ。証明書つきでの許可というふうに私は聞いておりますが、この残土と産廃の違いというのは何なのですか、一体。ちょっとお聞かせください。

◎議長（辻田 実君） 小沼経済環境部長。

◎経済環境部長（小沼 晃君） 残土と産廃の違いという御質問でございますが、残土という定義は特にないわけでございますが、産廃との違いということでございますが、一般廃棄物も含めました廃棄物との違いということで御説明させていただきたいと思います。

市のいわゆる残土条例の第2条でございますが、残土の定義というのが一応条例上明記されております。これを申し上げますと、廃棄物の処理及び清掃に関する法律で規定されております廃棄物以外のもので、土地の埋め立て、盛り土及び堆積行為の用に供するすべてのもの、こういうふうに規定されております。

では、廃棄物の処理及び清掃に関する法律第2条第1項の内容はと申し上げますと、この法律において廃棄物とは、ごみ、粗大ごみ、燃え殻、污泥、ふん尿、廃油、廃酸、廃アルカリ、動物の死体その他の汚物または不要物であって、固形状または液状のもの。放射性物質及びこれによって汚染されたものを除くというような、そういう定義がなされております。さらに、廃棄物の処理及び清掃に関する法律の施行についてということで、厚生省の環境衛生局長通知というのがございます。この中に、廃棄物の定義を、今の第2



条と同じようなことを明記されているそのほかに、なお次のものは廃棄物処理法の対象となる廃棄物ではないということで、土砂及び専ら土地造成の目的となる土砂に準ずるもの、これが私どもとしてはいわゆる建設残土というふうな見方をしているわけですが、廃棄物ではない、ということでございます。

以上でございます。

◎議長（辻田 実君） 以上で6番議員鈴木順子さんの質問を終わります。

次に、8番議員増田基彦さん。御登壇願います。

（8番議員増田基彦君登壇）

◎8番（増田基彦君） さきに通告いたしました3点につき、御質問をさせていただきます。

1点目、21世紀に向けての市の農政についてでございます。シカゴの穀物相場が昨年後半より急騰しております。幾つかの国際機関や研究所から21世紀の世界における食糧事情についての予測、見通しが発表されております。その多くは近い将来における食糧危機を警告しております。

1980年代を通して、地球人口は年率 1.8%で伸び続けてきました。先進諸国の平均増加率が 0.6%に対し、発展途上国の人口増加率は年率で 2.1%、そのうちの後発途上国では 2.7%。地域別で見ると、アフリカ諸国では3%という人口増加率となっております。毎年 9,000万人から1億人の人口増加がある中で、その95%が現在も栄養不足に悩む貧しい発展途上国の人々と言われております。一方、1980年代を通して、世界の穀物生産は年率1.45%という伸びでした。人口増加率 1.8%には到底届きませんでした。したがって、地球の人口1人当たりの穀物生産は年々減少していくことになります。

ワールドウォッチ研究所の地球白書94年、95年版は、地球人口1人当たりの年間穀物供給量は、1984年の 346キログラムをピークとして減り続け、2030年には 248キログラムとなり、世界的な食糧難時代が来ると警告しました。フィリピンに本部を置く国際稲研究所は、2年前に、21世紀の初頭、アジアに深刻な米不足が起きると警告いたしました。

ちょっと失礼します。

(「休憩」と呼ぶ者あり)

◎議長(辻田 実君) 暫時休憩をいたします。

午前10時58分 休憩

午前11時23分 再開

◎議長(辻田 実君) 休憩前に引き続き会議を開きます。

増田議員の質問はこれで中断とし、次の質問者を繰り上げて質問を行いたいと思います。これに御異議ありませんか。

(「異議なし」と呼ぶ者あり)

◎議長(辻田 実君) 御異議なしと認めます。よって、決しました。

続きまして、11番議員秋山光章さん。御登壇願います。

(11番議員秋山光章君登壇)

◎11番(秋山光章君) 増田議員の早期の回復を御祈念申し上げますとともに、水道関係の皆さん方、この渇水で大変だったですけれども、きょうの待望の雨で、大変おめでとうございます。御苦労さまでございました。

私は、本定例会に上程をされました13件の案件の審議の前に、さきに通告いたしました3点につきまして質問をさせていただきます。

5月30日は、ごろ合わせから始まりましたごみゼロ運動、館山市ではC & B、すなわちクリーン・アンド・ビューティフル運動として市民に知られてきているところであります。趣旨としては、清潔で美しいまちづくりを基本理念とし、安心して暮らせる住みよい環境づくりを目指して、クリーン・アンド・ビューティフル運動を市民総ぐるみとなって推進するものとする定義づけられています。また、実施内容としては、まちを愛する週間の設定、取り戻そうきれいな川と青い海、花のまちづくりの推進、暴力追放運動の推進と大きく分かれている中で、また細部にわたり18項目に分かれております。その中の散乱ごみの一斉清掃、ごみゼロ運動の実施が6月2日に千葉県下一斉、館山市も含め75市町村で行われました。私も地元九重大井にて、朝の8時半から10時まで、規定のごみ袋を持ちまして、国道沿いの空き缶、空き瓶、ごみ等を拾い集めていたのですが、近所の人の参加が少なく、ごみ収集場所には3袋しか集まりませんでした。私も部落の組長、ほかでは班長と呼ば

れる役があるわけで、皆さんに袋を届けながらお願いをしてきたのですが、10軒のうちの3軒しか参加してくれませんでした。都合で前後してやったのか、それとも皆さんの関心がないのかわかりませんが、館山市全域の結果を教えてください。また、昭和62年から始めたこの運動の盛り上がりはいかがだったか、教えてくださいと思います。

房日新聞には、安房都市の拾い集めたごみ50トン、4万人が環境美化に汗、館山市では空き缶だけで1万939個あったそうです。大変な数字です。これでも、農家の方たちは田植え前に田んぼの缶、瓶は事前に拾ってあります。いかがでしょうか。昨年の6月議会で私は空き缶、空き瓶のポイ捨て禁止条例の制定を強くお願いをしてきました。今年度は真剣に考えていただきまして、条例の制定をしていただきたいと思います。

次に、トンネルを越えたら雪国だったという有名な詩があります。館山市は、「花の館山」という歌があるほどの四季折々の花のまちであります。本年度の主な事業の中にも、快適でゆとりある生活環境づくりの中に花のまちづくり推進事業が計画されています。皆様、ちょっと目を閉じてお考えをいただきたいと思います。そして、皆様は館山市を花の館山とイメージして、都会から、また富浦以北から車でバイパスを走って、館山に向かって来てもらいます。そして、館富トンネルを出たら花がいっぱいの花国だったら素晴らしいと思いませんか。どうでしょうか。今の館山バイパス、私たちが見て、お世辞でもきれいとは言えないでしょう。冬には菜の花がとてもきれいに咲きますけれども、枯れてもそのまま放置、これでは館山の道の表玄関は花のまち館山とは名ばかりで、イメージはわからない。日本の道百選の中の平砂浦の道路沿いの花壇は、地元の私たちも感動をする。まして、観光客ならなおさらインパクトが強いと思います。また、館山駅のロータリーの花壇も大変素晴らしい。ボランティアの方々や館山市の職員の方々が植栽、管理しているそうだが、電車からおりた人たちはやっぱり花の館山だと納得すると思います。館山に来てよかった、また友達を連れてきたいと言われるような花のまち館山市の国道127号バイパスの花壇づくりはできませんか。

続きまして、次の質問に入ります。首都圏より近く、かつては白砂青松の

避暑地として北条海岸は多くの来訪者を受け入れてきましたが、近年はアクセス、そして環境の悪さ等で、海水浴客の減少により、海浜リゾート地としての魅力を失いつつあります。このような中で、平成5年4月に館山湾は、日本でたった3カ所、宮崎、館山、富山と選ばれた ― 国の事業でありますビーチ利用促進モデル地区に指定されました。東京湾横断道路の開通、東関東自動車道館山線の開通が待たれる中で、県南の中核都市として、また観光地館山市として、時を得た事業と大変喜んでおります。千葉県で平成6年度予算での150メートルの護岸工事も5月にはおおむね完了したとのことを聞きまして、早速見学に行っていました。大変立派な ― そして、環境のことも考え、階段の先には木が使っていました。見た目もきれいでした。あの段に腰かけ、サンセットといいたしめようか、波静かな鏡ヶ浦に名峰富士山と伊豆の山々を映し、ヨットなどが走っている落日は絶景であると思います。こんなすばらしい景色は、日本じゅう、いや、世界じゅうどこでも館山でしか見られない光景であります。こんなすばらしい館山湾ビーチ利用促進モデル地区の整備が早く完成することを願うわけですが、この事業の進捗状況をお伺いいたします。

続きまして、館山港についてお伺いをいたします。館山港は、南部地区は砂、砂利を主とした港湾物流と漁船の停泊を中心に利用され、北部海岸にはこのたびのビーチ利用促進モデル事業としてすばらしい養浜事業が始まっておりますが、この港の持つ潜在的可能性や良好な自然環境を十分に生かし切れていないのが実情であると思います。しかし、将来的には、東京湾横断道路の開通、東関東自動車道館山線の建設により、首都圏からのアクセス機能の大幅な向上が見込まれています。また、ＪＲ館山駅西口地区土地区画整理事業の実施により、ＪＲ館山駅との連絡性が改善されることとなります。このような中で、人工ビーチを核として、館山湾全体の調和のとれた海岸環境整備を行っていかねばなりません。この中におきまして、平成7年度に館山港整備構想調査が行われ、今まで海関連の企画に対して漁業関係者の同意が難しかったため、漁業関係者を含めての周辺関係者、学識経験者、役所等の17名の方々のいろいろな意見、貴重な意見が交わされ、館山港整備構想

調査がまとまったと聞きましたが、どのような内容か、教えていただきたい  
と思います。

また、館山湾には月に何回となく海上自衛隊の自衛艦が数隻停泊している  
のを見かけます。館山湾には自衛隊の栈橋はあるのだけれども、大きい船は  
喫水線が最低でもマイナス10メートル、バースの長さが120メートル以上な  
くてもは接岸できないそうです。接岸できれば、たくさんの隊員が下船し、館  
山市内で買い物もするでしょうし、野菜、肉、魚等の生鮮産品も調達をして  
くれるならば市内商店街は潤うと考えますが、館山港整備構想は自衛艦が着  
岸できる構想になっているのか、お伺いをいたします。

また、ただいまは試作、試運転中と聞いておりますが、高速コンテナ船テ  
クノスーパーライナーの基地にはできないか、お伺いをいたします。東京湾  
は、浦賀水道、中ノ瀬水道等、船が高速で走れないところがたくさんありま  
す。東京湾入り口から東京竹芝栈橋や横浜港まで四、五時間かかるそうです。  
また、着岸してもすぐに荷おろしができないとかで、海外から高速で走って  
きても、湾内の時間ロスはいただけません。館山港に着岸し、東関東自動車  
道、東京湾横断道路で二、三時間で首都圏です。そこで、湾港の館山湾が時  
間的に首都圏の最重要コンテナ基地と思いますが、いかがでしょうか。

3番目の質問に入ります。平成不況と言われている今日ですが、国会でも  
住専の問題で審議がとまったり、大変な事態となっております。10年前、ち  
ょうど世の中は好景気の追い風で、銀行の金利も高く、所得も倍増というこ  
とで、だれが商売してももうかるほど世の中は浮き立っていましたが、その  
後、世の中は世界的にバブルの崩壊が起こり、御他聞に漏れず、日本もバブ  
ルの崩壊の渦に巻き込まれてきました。国の総量規制が始まり、銀行がお金  
を貸さなくなり、やりくりできなくなった不動産、住宅関連を中心に行き詰  
まり、株価の暴落、金融機関の破綻等、住宅専門金融会社、住専とかノンバ  
ンク等が今大騒ぎをしているのが現状であります。それゆえに、政府といた  
しましても、景気の回復を願い、金利の引き下げを初め、あらゆる政策で対  
処しているところであります。しかし、なかなか景気の回復が鈍く、苦慮し  
ているところであります。

館山市といたしましても、自主財源が乏しく、思い切った施策ができないのが現状であります。しかし、財政調整基金は一般会計の関係で使われてはいますが、平成8年3月末の基金の合計が40億円弱あるやに見ます。館山市はまだまだ健全財政だと私は考えております。館山市は、昭和49年に年間予算40億円弱の事業の中で3億円余の赤字財政になったことがありました。財政の立て直しに当時の役職員の方々は大変努力されたと聞いております。その結果、再建のために基金を13にふやし、各目的を持ち積み上げて、基金を最も確実かつ有利な方法にて保管し、その利子で資産の増大を図り、短期間で財政を立て直し、健全財政に移行したわけでございます。

しかし、このたびの元収入役のN T T株購入事件はまことに遺憾であり、市民は厳しく見ております。昭和62年から63年といいますと、景気もよいかと思いますが、我々のところまでも証券会社や商社から電話やD Mがひっきりなしに來たころかと思ひます。元収入役の一人は利子で資産の増大を図りたかった、もう一人は一定価格になれば挽回できるかと思ひたと答えておりますが、この方々は任期中に館山市のために収入役として基金の運用をしてきたかと思ひますが、実績を教えてください。また、N T T株購入、公金損失の監査請求が出ていますので、早急に監査をして、市民の皆様になんて納得のいく方法で解決をしていただきたく、監査の執行状況を教えていただきたいと思ひます。

以上3点を質問いたしました但、再質問のないように、わかりやすい御答弁をよろしくお願ひいたしたいと思ひます。

◎議長（辻田 実君） 庄司市長。

（市長庄司 厚君登壇）

◎市長（庄司 厚君） ただいまの御質問にお答ひします。最後に御要望がありましたんで、わかりやすくやります。

大きな第1、クリーン・アンド・ビューティフル運動についての御質問の第1点目、今回の春の一斉清掃についてでございますが、これにつきましては、町内会連携を初め、たくさんの団体と1万2,000人の市民の御協力をいただきまして行ったわけでございます。その結果につきましては、収集量約

11トン、そのうち缶類5トン、瓶類5トン、可燃ごみ1トンでございます。

次に、第2点目、ポイ捨て禁止条例の制定はできないかとの御質問でございますが、館山市におきましては、ただいま申し上げましたクリーン・アンド・ビューティフル運動等を通して、環境美化の意識が浸透してきているものと考えます。私がこのクリーン・アンド・ビューティフル運動で市内を一巡しましたときにも、町内会の9割がきょうは参加していると言い切る会長さんもおった状況でございます。この運動等を通して、今後環境美化の意識をより浸透してまいります。ポイ捨て禁止条例につきましては、一部の市町村で制定されておりますが、これにつきましてはさまざまな意見が出ております。館山市といたしましては、現在のところ条例の制定は考えておりませんが、他市町村との連携の中で実効性のあるよりよい方法を見出すべく努めているところでございます。

次に、第3点目、花の館山市づくりについての御質問でございますが、花のまちづくりは、従来からフラワーライン、館山バイパス、これらの道路や公園、公共施設等の植栽など、市民と行政が一体となって展開してまいりました。今後さらに各地域、企業、家庭への啓発に努めるとともに、花のまちづくりボランティアの育成、支援に努める等、市民参加による花のまちづくりを推進し、また主要幹線道路への植栽につきましては、各道路管理者と協議をしてまいります。このような活動を通して、花の館山の実現に努めてまいりたいと考えております。

次に、大きな第2、館山湾整備についての御質問の第1、ビーチ利用促進モデル事業の進捗状況についての御質問でございますが、事業主体であります千葉県により第1期工事が着手され、現在その一部の階段式護岸が約148メートル整備されております。また、本年秋より引き続き約130メートルの区間が整備されていくと伺っております。

次に、第2点目、館山港整備構想調査についての御質問でございますが、この調査に当たりましては、運輸省、千葉県、館山市、地元関係者等から成ります館山港整備構想調査委員会によりまして、館山港全体を見通しました長期的な整備構想が取りまとめられたところでございます。

次に、第3点目、海上自衛隊の船舶の着岸についての御質問でございますが、艦船の着岸できるバースを整備していくためには、防衛庁を初め関係諸機関との協議等を含めまして、今後館山港整備構想の熟度を高める中で検討が必要と考えております。

第4点目、テクノスーパーライナーの基地についての御質問でございますが、テクノスーパーライナーは将来の海上輸送を担う船舶として期待されておりまして、運輸省におきまして調査に着手すると伺っておりますので、館山市といたしましては調査の推移に注目してまいりたいと考えております。

大きな第3、基金の活用についての御質問でございますが、各収入役それぞれの在任期間における基金の運用益は、山田元収入役3億538万2,000円、渡辺元収入役6億7,374万7,000円、川上前収入役5億1,554万1,000円となっております。

基金の活用の監査の執行状況については、これは監査委員から答弁申し上げます。

◎議長（辻田 実君） 山田監査委員。

（監査委員山田教和君登壇）

◎監査委員（山田教和君） 監査の執行状況につきましての御質問でございますが、現在市長からの監査請求を受けまして、事実を確認するため、元収入役を初め、市長、助役、会計職員及び証券会社等の関係人に対し事情聴取を行うとともに、書類の確認をしているところでございます。

以上でございます。

◎議長（辻田 実君） 11番秋山さん。

◎11番（秋山光章君） それでは、もう少しいい答弁が欲しかったんですけども、これでは再質問をやらないわけにいかないし、お昼にまたがっちゃいますけれども、聞いていきたいと思います。

第1点目のクリーン・アンド・ビューティフル運動のことでございますけれども、館山市の動員人口1万2,000人とお伺いしましたけれども、これはある新聞に載っておりましたが、参加者が多かったのは松戸市の6万1,000人、船橋市、市川市となっておりますけれども、館山市はこれで何番目だっ



たかわかりますか。

◎議長（辻田 実君） 小沼経済環境部長。

◎経済環境部長（小沼 晃君） 県内のいわゆるその参加人員の順位というのは、ちょっと数字を把握しておりませんので、御理解いただきたいと思います。

◎議長（辻田 実君） 11番秋山さん。

◎11番（秋山光章君） そうしますと、やっぱりこういうふうに新聞に出ますと、私なんかいろいろな商売の関係で、どこが何番なんていいますと、自分のうちは何番かなってやっぱり考えますよね。それだけ住民の意識があったとかどうかということを経ひ調べて — 白浜町は参加者の割合が人口の数に置きかえますと36.8%だ、大変多かった、こういうふうに出ています。そういうわけで、もう少しいろいろな面でこの盛り上がりを — 結構盛り上がったかと思えますけれども、盛り上がらなかったのは私のところの部落だけかも知れませんが、せめて館山市は何番だったかなということぐらひはやっぱり聞いておいていただければなと思うんですが。

そして、このPRにつきまして、それぞれの町内会長さんといろいろ集まりがあって、こういうすばらしい本もつくってやってもらったと思うんですが、そのほかには何かPRの方法はあったんでしょうか。

◎議長（辻田 実君） 小沼経済環境部長。

◎経済環境部長（小沼 晃君） ポスター、それからリーフレット、それから御参加いただいた方にティッシュペーパーというような、そういうもので啓発をしてきた、こういうことでございます。

以上でございます。

◎議長（辻田 実君） 11番秋山さん。

◎11番（秋山光章君） そうしますと、ここには4人に1人が何らかの清掃作業に当たったと書いてありましたけれども、館山市の場合は1万2,000人というと、4万8,000人ですから、それ以下ということですね。そうですね。

◎議長（辻田 実君） 小沼経済環境部長。

◎経済環境部長（小沼 晃君） 先ほど市長の方から1万 2,000人という御答弁があったわけですが、ちょっと補足させていただきたいと思います。それと、さっきは県内での順位というような御質問がございましたんですが、県内の方はちょっと手元に資料がございませんが、安房郡市の順位といたしますか、そういう参加率等のデータがございますので、申し上げたいと思います。

先ほど秋山議員さんの御質問の中にございましたように、総体で4万人強、4万 788人安房郡市では参加しているわけでございますが、館山市につきましては1万 5,000人ということで数字の方を見ていただきたいと思います。参加率で申し上げますと、安房郡では第1位が先ほどもございました白浜町でございます。館山市は、鴨川市と鋸南町が日にちがちょっと違ひまして、その辺ははっきりデータがないわけでございますが、一応7番目というような数値になっております。

以上でございます。

◎議長（辻田 実君） 11番秋山さん。

◎11番（秋山光章君） はい、わかりました。これからもPRをしていただきまして、住民みんなが参加して、場所によってはごみを集めた後にみんなでバーベキューを楽しんで、地域で盛り上がったというようなことを聞いたところもありますので、そういうような格好であれば最高じゃないのかなと思います。

続きまして、このPRのことに絡みまして、5月31日は世界禁煙デーということで、房日新聞にも安房支庁では禁煙ということで、皆さんが吸わなかったんだということでしたけれども、館山市は禁煙デーの催し、入り口か何かにきょうは禁煙デーですからというようなあれはあったんでしょうか、役所の中では。

◎議長（辻田 実君） 渡辺市民福祉部長。

◎市民福祉部長（渡辺富雄君） 禁煙デーにちなんで一般市民への呼びかけは実はしておりませんが、現在館山市役所内部で一昨年から事務室、会議室等の規制を行っております。そういったことで、禁煙デー、これは啓

発の一つの方法だろうと思いますけれども、一日禁煙しましょう、あるいは時間を決めて禁煙しましょう、そういった取り組みよりも今役所の中では一歩進んだ取り組みではないかというふうに考えております。今現在では市民への呼びかけはしていません。

以上です。

◎議長（辻田 実君） 11番秋山さん。

◎11番（秋山光章君） 私もちょうど31日は役所へちょっと用事があって来ましたが、入り口ではやっぱりちゃんと灰皿が置いてありまして、どうぞ吸ってくださいとあるんです。そういうことを踏まえますと、やっぱりこの31日は、とにかく世界禁煙デーならばそんなPRもしてほしいと思いますし、その1週間禁煙週間ということでしたので、ぜひ館山市でもそういうPR、今月いっぱい環境月間だそうですから、またそういう点考えてみていただきたいなと思います。

続きまして、建設課の皆さんが車で市内のいろんなところにある捨て看板、看板を集めて駆け回っていました。これは、その看板は案内用の看板じゃなくて商売用の看板だと思いますけれども、千葉県屋外広告物条例の一部改正についてということの中で、第21条の中、これには当たらないのでしょうか。

◎議長（辻田 実君） 鈴木建設部長。

◎建設部長（鈴木信一君） 屋外広告物につきましては、千葉県の屋外広告物条例に基づきまして現在館山市で実施しているわけございまして、6月の2日に同時に、ごみゼロ運動とC&B運動の推進とあわせまして、建設課で実施した数字がございます。まず、違反ポスターの貼付の関係でございしますが、看板が107枚、違反ポスターが199枚というようなことで、設置者に対しまして文書で警告をしたところございまして、この違反ポスターにつきましては、市で許可をしたものと許可をしないものがございます、許可しないものにつきましては違反ポスターとして取り締まっておるというような現状でございます。

以上でございます。

◎議長（辻田 実君） 11番秋山さん。

◎11番（秋山光章君） ここには罰金とかいろいろ書いてあります。50万円以下の罰金と書いてありますけれども、商売用のポスターですと、やはり商売で使っているわけですから、市役所の皆さんがわざわざ集めに駆け回って、やっぱり経費もかかっていますんで、これはもう受益者負担とか、そういうものを取るような条例か何かをつくって、まちをきれいにしていただけたらありがたいなと思いますけれども、どういうお考えをしていますか。

◎議長（辻田 実君） 鈴木建設部長。

◎建設部長（鈴木信一君） この千葉県の屋外広告物の条例に基づきまして、罰則規定もございますので、そこいらを十分適用していきたい、このように思っております。

以上でございます。

◎議長（辻田 実君） 11番秋山さん。

◎11番（秋山光章君） それでは、次に移りたいと思いますが、何回言ってもポイ捨て条例ならないわけですが、実はこの数字を見まして、今回私ちょっと計算してみたんですけれども、鴨川市は面積が館山市よりも1.3倍広いです。そして、拾った缶は館山市の方が2.4倍多いんです。日にちはちょっと違ってはいますが、そういうわけで、鴨川市はごみのポイ捨て禁止をやっています。条例の制定をされましたけれども、この因果関係などがありますでしょうか。

◎議長（辻田 実君） 小沼経済環境部長。

◎経済環境部長（小沼 晃君） 因果関係という御質問でございますけれども、その辺まで私ども把握はしていないわけでございます。それと、鴨川市につきましては、そういうポイ捨て禁止条例を施行するというような情報が早くから出ているわけでございます。実際にはこの7月1日から施行というようなことでございます。

それと、拾った空き缶の数等の御指摘もございました。確かに面積的には鴨川市の方が館山市より広いわけでございますが、逆に参加人員で申しますと、館山市が1万5,000人に対して鴨川市は6,000人というような、そういうような要因もございますので、ちょっとその辺の判断は難しいのかな

というふうに考えております。

以上でございます。

◎議長（辻田 実君） 11番秋山さん。

◎11番（秋山光章君） それこそ実施は7月かもわかりませんが、市民の皆さんが鴨川市はポイ捨て条例をつくったんだよということで捨てていないのかもわからないし、ふだん拾っているかもわかりません。そういうわけで、私が何回言っても — これからもまだ言っていくつもりでいますけれども。

次に、南房黒潮観光連絡協議会ということで、千倉町、白浜町、館山市ということで、観光についていろいろお話し合い等があると思いますけれども、どんな話し合いを年間何回ぐらい、そしてまた、このごみのポイ捨てのこの話なんかは出なかったのかどうか、お伺いしたいと思います。

◎議長（辻田 実君） 小沼経済環境部長。

◎経済環境部長（小沼 晃君） 黒潮観協の方は、本来の目的が、この1市2町によります観光宣伝というような部分にウエートがあるわけでございます。回数につきましては、年1回定例総会がございますし、それから例えばキャンペーン等の事業を行う場合には適宜会議が開かれているというふうに聞いております。

それから、ポイ捨て等について、いわゆる散乱ごみ等についてのそういう話し合いがなされているかどうかということについては、正確には承知はいたしておりませんが、一応そういう話として、中で検討をされないかどうかという話は、関係します事務局職員 — 市、町の職員でございますが、一応私どもからお話をした経緯はございます。それが議題とされたかどうかについてはちょっと把握をいたしておりません。

以上でございます。

◎議長（辻田 実君） 11番秋山さん。

◎11番（秋山光章君） そして、房日新聞 — これも房日新聞なんですが、千倉町に空き缶回収機というものが設置をされたという記事が載っておりますけれども、これを見まして皆様はどういうふうに思いますか。

◎議長（辻田 実君） 小沼経済環境部長。

◎経済環境部長（小沼 晃君） 空き缶というのは非常にかさばるものでございますので、それを収集するために圧縮するという、そういう機器があちこち設置されているというようなことは伺っております。その設置の目的がいわゆる収集をしやすくするというようなことにあるとすれば、今後の空き缶等の収集をどうするかという、そういう中でこれはやはり検討していく必要があるのかな、このようには考えております。

以上でございます。

◎議長（辻田 実君） 11番秋山さん。

◎11番（秋山光章君） もう一回聞きますけれども、本当にこのポイ捨て禁止条例をつくる気はないんですか。

◎議長（辻田 実君） 小沼経済環境部長。

◎経済環境部長（小沼 晃君） 安房郡市では、御承知のとおり、これから施行いたします鴨川市を含めまして1市2町——これは11市町村のうちの1市2町でございますが、県内では、80市町村ございまして、御宿町と、それから木更津市というようなことで、5市町というようなことでございます。先ほど市長の方からも御答弁申し上げましたように、これは他の法律との、罰則規定との関連がございまして、実際に既に実施をしております町等に伺いまして、そういう規定を適用したケースは全くないというようなことでございます。

それから、特に安房のいわゆる実施をしております以外の町村に伺いしても、1つの町で、必要性は感じている。でも、すぐというわけではないというような回答もございましたし、そのほか、館山市を含めましてほかの町村につきましては、今そういう考えはないというようなことでございます。ただ、散乱ごみを、これを何とか抑えたいといいますが、ポイ捨てを防ぎたいという考え方はそういう市町村も持っているわけでございます。したがって、やはり一市一町一村ではございまして、南房総、特にこの安房という地域の中で、広域的な考え方の中で、見方の中でそういういい方法ができれば進めていきたいということで、今二、三の町の方に投げかけていると

ころでございます。今後そういう広域的な中で検討してまいりたい、このように考えております。

以上でございます。

◎議長（辻田 実君） 11番秋山さん。

◎11番（秋山光章君） これは一市とか一町でやってもどうしようもないと思いますんで、広域の中でやっていただきまして — そのまちを出たらバイパス捨てじゃ困りますんで、ぜひ広域の中で考えていていただきたいなと思います。

そして、トンネルを出たら花国だったという — これは私のつくった言葉なんですけれども、平砂浦は大変すばらしいです。あの平砂浦の仕事は県の道路環境整備事業ということで、県から3分の2、館山市で3分の1を負担をしているというように聞いておりますし、本年度の主な事業の中に、「だん暖たてやま」の中にも花のまちづくりということで、予算化もされておりますけれども、何か見たところ、主な事業がずっと列記してある中で一番予算が少ないんです。246万円、花のまちづくり推進事業。これで花がきれいに咲くのかなと思うんですけれども、この県の道路環境整備事業に — 先ほど県の方と協議するということですから、していただきまして、きれいなバイパスにしていいただきたいなと思っております。

あと、今の時点で大変草がいっぱい生えています。環境月間でもあの草は刈らないんでしょうか。そして、できれば館山市のバーベナでも植えたら大変きれいだと思いますけれども、いかがでしょうか。

◎議長（辻田 実君） 小沼経済環境部長。

◎経済環境部長（小沼 晃君） 館山バイパスの分離帯のことだと思いますが、あの分離帯につきましても植栽を — これは建設省の千葉国道工事事務所になるわけでございますが、植栽等をお願いしているわけでございます。たまたま今まで雨が降らなかったということで、草刈りや耕うん等で、さらに風の影響で、要するに飛散というんですか、そういうものを懸念しているということございまして、梅雨に入り、雨の状況を見て千葉国道工事事務所としてもそういう草刈りとか植栽ということを検討してくれる、こういう

ことでございます。

以上でございます。

◎議長（辻田 実君） 11番秋山さん。

◎11番（秋山光章君） 時間がなくなっちゃいますので先にいきますけれども、続きまして、2番目のビーチ利用促進モデル事業についてお伺いをしますが、昨年ですか、私たちが書類で、絵でいただいたあのおりに動いているのかどうか、お伺いをしたいと思います。

◎議長（辻田 実君） 寺嶋企画部長。

◎企画部長（寺嶋 清君） ビーチ利用促進モデル事業につきましては、基本計画の中で ― 図面もごらんいただいたということでございますけれども、その計画に沿って工事が進められているということでございます。

◎議長（辻田 実君） 11番秋山さん。

◎11番（秋山光章君） 6月7日の千葉日報に、メッセから館山港へということで、幕張新都心と南房を航路で結んでみようということで、県が採算性を調査し始めたということであります。大変ありがたいことで、これから海洋交通がますますこのビーチ利用に合わせて、館山港に合わせて進んでくるのは大変ありがたい話かなと思っておりますけれども、ただ来て、見て帰っちゃうだけでは大変つまんないと思うんです。やっぱり先ほど言いました夕日も見ていていただきたいし、その中で ― 何年か前に山中先生が噴水の話を出したと思うんです、議会で。そのことについて、役所としてはこのビーチ利用のすばらしい海岸環境整備の中で提案とか、考えたことはありますでしょうか、お伺いしたいと思います。

◎議長（辻田 実君） 寺嶋企画部長。

◎企画部長（寺嶋 清君） 噴水の問題でございますけれども、これはまず漁業関係者とのコンセンサス、合意形成が必要ということでございまして、そういった基本的な部分でまだ合意が得られていないというふうなことを伺っております。したがって、現在のところ噴水計画はございません。

以上でございます。

◎議長（辻田 実君） 11番秋山さん。



◎11番（秋山光章君） 合意が得られたらやるんでしょうか。

◎議長（辻田 実君） 寺嶋企画部長。

◎企画部長（寺嶋 清君） 一連のコンセンサスといいますか、そういった合意形成が得られた後に、次の段階でいわゆる事業化の可能性があるのかどうか、いろいろな検討調査が必要だということになってくると思いますので、次の段階でそういった対応がなされていくということでございます。

◎議長（辻田 実君） 11番秋山さん。

◎11番（秋山光章君） 続きまして、今回の予算の中で、夕日海岸ホテルの前の駐車場の電話機——ドライブスルー式の電話機ですか、あの辺の街路灯の予算が入ったと思いますけれども、あとＪＲ館山駅東口、そして西口にもこれから街路灯がつかないといけないと思いますけれども、この街路灯は館山市らしい街路灯がつくようになるんでしょうか、お伺いしたいと思います。

◎議長（辻田 実君） 小沼経済環境部長。

◎経済環境部長（小沼 晃君） 照明灯、照明施設についての御質問でございますが、今お話いただきました——場所によりまして、特に駅前等は照明施設、ライトアップというような、そういうようなものもございますが、いわゆる街路灯というようなことにつきましては、今御指摘いただきましたように、具体的にどういうデザインとか、どういう内容のものというのはこれから検討することになるかと思いますが、なるべくそういうような方向で検討はしてまいりたいと考えております。

以上でございます。

◎議長（辻田 実君） 11番秋山さん。

◎11番（秋山光章君） 館山は館山らしい——富浦は富浦らしく、ビワのマークの入った街路灯がついておりますけれども、これは一つつけければ、やっぱり5年、10年使えるものだと思いますんで、つけちゃってからこれがよかったってつけかえる、こんなばかな話はないですから、皆さんの税金でやるわけですから、早いうちに——今年度の予算でつくんですか。

◎議長（辻田 実君） 小沼経済環境部長。

◎経済環境部長（小沼 晃君） 8年度予算で今御指摘のように予算計上はされておるわけでございます。ただ、今御質問ございましたように、富浦町の例等も御提案いただいたわけでございますが、具体的にまだそういう検討はされていない。ある程度景観に合わせたような、そういう街路灯というのは、これは当然検討していかなくちゃいけないなというふうに考えておりますが、それは今後検討していくということになろうかと思えます。

以上でございます。

◎議長（辻田 実君） 11番秋山さん。

◎11番（秋山光章君） 私も前に決算委員会でこんなことを言ったことがあるんですけども、もう既に予算化されていても、まだ考えていないんじゃない、これはもう到底できることじゃないんで、少し遅いんじゃないかな。もう少し先を見てやってもらわないといけないなと感じます。

そして、館山港整備のことでございますけれども、先般私たち、館山港整備調査特別委員会ということで、木更津へすばらしい港ができたんだということで視察に行きました。そして、見せていただいたわけでございますけれども、そのとき役所の方々のお話も聞いてきましたけれども、つくるときに、県、国がやったんで、木更津市さんは入らなかったんだ。そして、水深12メートルの港が、すばらしい港ができたんだけれども、いざ来た船は材木の船だけだということで、コンテナの船でも来れば大変市もよかったんだがなというような話がありました。そういう中で、今回の館山港整備構想調査委員会の中には議員が一人も入っていないわけでございますけれども、そういうものもやっぱり大きい意味で先のことを考えながらやっていかないと、できちゃった後で——じゃ、これは要望にしておきます。できちゃった後に何か言ってもしょうがないんで、先にやはりこういう構想調査等があったときには、もう少し広い意味でいろんな人の意見を聞くものをつくっていただきたいなと思えます。

続きまして、海上自衛隊の岸壁のことでございますけれども、館山市としては、海上自衛隊との連携をとっていくためにも必要不可欠なバースというんですか、港だと思えますんで、そうしますと経済効果も必ずあると思いま

す。このことで自衛隊からの要望などは市の方には来ていないんでしょうか、お伺いします。

◎議長（辻田 実君） 寺嶋企画部長。

◎企画部長（寺嶋 清君） 私どもの方で地元の海上自衛隊にもお伺いを、訪問をいたしまして、こういったお話もさせていただいているわけでございます。地元の海上自衛隊といたしましては、基本的には館山港と共存をしていきたいというふうな基本的な意向を持っております。したがって、バースということになりますと問題が大きいということから、具体的な施設の整備につきましては、その都度上層部の方に報告をして判断を仰ぎたいというふうなことを伺ってまいっております。

以上です。

◎議長（辻田 実君） 11番秋山さん。

◎11番（秋山光章君） 続きまして、テクノスーパーライナーという日本の粋を集めた船が今建造されているわけでございますけれども、これは日本の政府が補助金等を出してやっている船で、大変すばらしい船で、時速50ノットですか、90キロ相当、そして海が荒れても安全に1,000トン以上の貨物を運べるということで、大変すばらしい船と聞いております。

そこで、先ほどもお話ししましたけれども、自衛隊の船にしても館山港から横須賀まで3時間かかるんだという過密地帯の東京湾ですので、わざわざ速く走ってきたこのテクノスーパーライナーが東京湾の中まで入って行って荷おろしというわけにいかないと思いますんで、何か答弁の方も少しいいような答弁を聞きましたんで、ぜひこのテクノスーパーライナーなどの泊まれるコンテナ基地にしていかなければいけないかなと思っておりますけれども、これを受け入れるに当たりましては、港湾も高速荷役システムが必要になり、陸上交通を含めた複合一貫輸送システムをしていかなくちゃいけないと書いてあります。そういう中で、これからは館山港——先を見まして、北側は海水浴場、そして南側ですか、今の館山港から自衛隊の方にかけて、こちらはコンテナ基地にしていきたいということで考えてよろしいんでしょうか。

◎議長（辻田 実君） 寺嶋企画部長。

◎企画部長（寺嶋 清君） いろいろの課題があるわけでございますけれども、将来的に実現が可能となった場合に、そういったスペースといいますか、停泊スペース、こういったものが設けられるようなことを視野に入れて、港湾管理者の県の方でも構想の中で熟度を上げていくというふうなことを伺っております。

◎議長（辻田 実君） 11番秋山さん。

◎11番（秋山光章君） それでは、千葉港は貨物の取り扱い量が2年連続日本一だそうですから、ぜひそのおこぼれでも館山はいただければなと思っております。

続きまして、基金の運用益でございますけれども、金利の場合、借りても預けても、寝ても起きてもついてくるものでありまして、元金が大きい分、やり方一つで随分運用益が出るものだなと感心しております。大変な運用益を上げてもらったのはよかったのですが、確実性のないNTT株はまずかったなと思います。監査の結果において、市民の皆様が納得できる解決を我々も含めてしていかなければならないと思っておりますが、いつごろ監査の結果は出そうですか。

◎議長（辻田 実君） 山田監査委員。

◎監査委員（山田教和君） 先ほどもお答えしましたけれども、館山市といったしましても大変大きな問題でございますので、現在慎重に事実確認をしておるところでございます、この後、損害責任の有無あるいは損害額の決定等をしていくわけございまして、できるだけ早い時期に市長の方に報告する予定でございます。

以上でございます。

◎議長（辻田 実君） 以上で11番議員秋山光章さんの質問を終わります。

午前の会議はこれにて休憩とし、午後1時再開といたします。

午後0時15分 休憩

午後1時03分 再開

◎議長（辻田 実君） 午後の出席議員数21名、休憩前に引き続き会議を開きます。

13番議員脇田安保さん。御登壇願います。

(13番議員脇田安保君登壇)

◎13番(脇田安保君) 既に通告をしてございます5点にわたり質問いたします。

日本の財政は、今かつてない危機に直面していると言われております。本年度予算では、返済の裏づけのない赤字国債を過去最大に発行するなどして、借金漬けの体質が一段と鮮明になってきております。1996年度の政府予算は総額75兆1,049億円なのに、年度末の国債残高はその3倍を上回り、241兆円に達し、国民1人当たり192万円に当たる国債残高であります。この借金の返済には長い期間が必要で、若い世代が引き継いでいかなければならない、そうしなければ到底返すことが不可能な性格のものです。このように国の台所が火の車になれば、経済の基盤を揺るがし、急速に進む超高齢化の中で、国民に重い負担がのしかかってくることは当然だと思います。また、地方都市に与える影響は多大であります。

大蔵省がことし1月国会に提出した財政の中期展望では、2000年に赤字国債発行をゼロにしようとするれば、国の一般会計のうち、国債費と地方交付税を除く政策的経費を示す一般歳出を毎年5%ずつカットする必要があるというように言われております。国の財政がこうなりますと、いろいろな影響が館山市にも出てまいります。事業の拡大により、起債額も年々膨らんでいることでしょう。また、市民にとっては大切な、必要な事業を行いにくくなり、そのため、私は館山の財政政策に対する取り組み方がこれからは重要性を帯びてくると思っております。安定的な、かつ円滑な財政運営が営めるところであります。この安定的かつ円滑な財政運営とは、5年後、10年後、20年後を見通した長期的なものであろうし、国でやっている財政の中期展望計画と深いかかわり合いを持ちながら進んでいくように考えられます。

そこで、私は館山市の財政の中期展望について明らかにしていただきたいと思っております。これが第1点の質問です。

第2点は、財政の次の質問であります。昭和56年3月の時点における市内の人口の将来の見通しは、昭和75年、すなわち平成12年には6万人と想定

しておりました。しかし、現実には人口は減少の一途をたどり、ついに基本計画の人口想定数を大きく変えなければならない状態になってきました。平成7年度の国勢調査によると、5万2,879人に減少しています。そして、これに基づいて、平成8年3月の館山市総合計画における人口想定数は、平成12年には5万4,000人としています。これは徐々に増加をしていくという予想であります。しかし、増加の予想根拠となるものを基本計画の中から拾ってみますと、館山自動車道完成、また、かずさアカデミアパークや館山工業団地事業の成功、また、ビーチ利用促進モデル事業等の促進や各種基盤整備による市民の利便性の向上を図ることにより、徐々に増加していくであろうと予想しております。しかし、これらの事業の成功が人口増につながるという見方は甚だ不透明と言わざるを得ない。もし例えば5万人を割るような状態になったときは、いろいろな面で障害が起きるのではないかと考えているのです。特に財政面では、税収入の減少がまずあるでしょう。それに伴って、事業の変更、縮小もあるでしょう。

そこで私がお尋ねしたいのは、この財政面から見た人口の減少傾向をどのようにとらえているのかという点であります。これが財政に関する第2点目の質問です。

次に、既に一般紙にも、テレビ等のマスコミにも広く報道されました元収入役の資金運用についてですが、収入役という立場を使つてのこのような運用は、許されるべき事柄ではないと思います。元収入役の言葉をかりれば、利子で資産の増大を図りたかったとか、一定の額になれば挽回できるといったことのようですが、余りにも無定見な物の考え方であります。元収入役の金銭の取り扱いの根底に大切な市民の税金を預かっているという認識が全く欠けていたと言ってもよいのではないのでしょうか。税金を払っている市民にしてみれば、毎日汗を流して働いているのです。市民の流したとうとい汗が税金となって集められるわけですから、その市民の苦勞を考えれば、簡単に右から左へと動かせないものです。この血と汗の結晶をどのように運用していこうかという慎重に慎重を期した感覚があつてしかるべきです。そこが問題なのです。しかし、余りにも無感覚に動かしているというところに

この問題の根本があると思います。例えば、株を買って少し金をふやそうという感覚は、これは自分の懐の金を使って株を買う感覚に似ていると思います。このように税金に対する感覚が問題なのです。

私は、この問題がどのような方向で解決に向かって進んでいるかという説明を求めるとともに、血税に対する感覚を市長は庁内でどのように指導しているのかという点についてぜひお尋ねをしたいと思います。

次の質問の稲村城址の整備と工業団地計画の調和についてという質問に入りますが、まず稲村城址の整備については、私は平成2年6月13日の本会議において当局に稲村城址の整備を提案をしております。今ここでその私の提案をしている議事録の引用をしながら質問を進めたいと思います。

当時の議事録によれば、このようになっています。ここで里見氏の系譜を調べてみますと、第56代清和天皇の代までさかのぼるわけですが、里見家の祖と言われるのが里見義俊なのであります。そして、安房の国とかかわりを持たれたのが里見義実であります。大野太平氏の「房総里見氏の研究」によりますと、次のようになっています。「館野村稲村にあり、城をここに築きて移居せり。その身幕府に属して、稲村に一城を創建す」とあります。すなわち、里見義実は館野村稲村に城を建てたことが明記されております。また、この道の権威であります川名 登氏の「房総里見の攻防」によりますと、房総の戦国大名として歴史の舞台に初めて登場するのは里見義堯であります。義堯の祖父義通は、幼少の嫡子竹若を残して病死したと言われております。死の直前に弟実堯を呼んで、竹若成長の後にはこれに譲るよう遺言した。義通の死後、実堯は里見家の実権を握ったが、その後、成長して義豊と名乗った竹若との間に家督をめぐる対立が生じ、天文2年、義豊は密かに兵を集めて、稲村城にいたおじ実堯を奇襲してこれを殺したのであります。このため、平久里河畔の犬掛で遭遇したのが犬掛合戦であります。この合戦で義豊は敗れ、稲村城に逃げ帰ったが、ここも囲まれ、ついに義豊は自害し、果てた。その後、稲村城は長く廃城となったのであります。時に天文3年4月6日のことであります。このように歴史をひもといていきますと、稲村城を中心に安房の国の栄枯盛衰が語られています。今その稲村城址は草木が生い茂り、その

ありし日の姿を思い浮かべるすべもないありさまです。この最も里見氏にゆかりの深い稲村城址の整備に着手をされたいかがかと思うのでありますが、いかがなものでしょうかという私の質問でありました。またあわせて、市で発行しているパンフレット「南房総たてやま文学歴史散歩」で稲村城址を紹介したらどうかと提案もしています。

当時の教育長の答弁は、「里見氏にゆかりの深い稲村城址の整備に着手したらどうかという御質問でございますが、御指摘のとおり、稲村城址は文献等によりまして里見氏の居城として伝えられておりますので、今後とも文化遺産としてその伝承に努めてまいりたいと思いますが、整備につきましては、教育委員会としては現在のところ考えておりません」という答弁でした。また、パンフレットにつきましてはこのように答えております。「御質問の「南房総たてやま文学歴史散歩」のリーフレットの中で、歴史関係では指定文化財を中心に紹介いたしましたので、稲村城址は掲載しておりませんでした。今後改訂版を発行する際に検討を加えたい、このように考えております」というように答弁しております。

このように、私と当局の質疑応答が行われたのが先ほど申し上げましたように平成2年6月13日の本会議でございます。このときに私は既に稲村城址の歴史的な重要性を訴え、整備をするように提案をしております。私は、稲村城址の整備と工業団地の推進の調和を図る道を市当局は探るべきであるというふうに考えております。この点について御答弁をいただきたいと思ます。これが第1点です。

次に、土地分譲方法の見直しが行われたようですが、不況による業績低迷に苦しんでいる県企業庁では、造成地の販売不振のてこ入れとして、土地分譲代金の分割方式、土地を造成し、販売するという業務基本方針も見直され、購入より借りて使うという方法も検討しているようです。

そこでお聞きしますが、当市の館山工業団地はどのような販売方法なのか。また、企業進出の経過、現状はどのようになっているのか、状況をお伺いたします。以上が稲村城址の整備と工業団地計画の調和についての質問であります。



次に、第4点目の福祉対策につきましては、既に実施している各市町村の例を述べながら質問を行います。まず、老人福祉センターに人工温泉装置は設置できないかという質問であります。これは埼玉県の手賀沼市、杉戸町、いわき市、大阪府豊中市などで導入している施策です。この装置は二股温泉の水溶性石灰岩の原石をタンクに詰めたもので、この中にお湯を循環させることで、炭酸カルシウムなどの温泉の成分が溶け出して、天然の温泉並みの泉質になることが分析の結果確認されています。また、鉱石の活性浄化作用により、汚れやぬめりが抑えられ、湯水の交換も月に1回で済むということです。利用したお年寄りには、温泉気分でリラックスできるとか、肩凝りや腰の痛みが治ったとか、体が温まり、湯冷めしないなどと喜んでいるようです。当市でもこの装置を老人福祉センターに設置してみたらどうかと思いますが、いかがなものでしょうか。

次に、札幌市で行っている市内の銭湯を利用したデイサービスです。実施主体は公衆浴場協同組合です。ゆにーくサービス21と称するこの事業は、銭湯の周辺に居住する体の弱いお年寄りを対象に、入浴のほか、食事やレクリエーション、生活指導、健康チェックなどのサービスをするのです。各銭湯ごとに銭湯経営者と地域のボランティアで構成する運営委員会を置き、月2回実施しています。15名から20名の利用者で、1回の利用料金は食事代相当分の420円ということです。施設をつくるのは費用がかかりますので、これからますます必要となるデイサービスの拡充に当たっては、行政の力だけでなく、民間の協力もこのように視野に入れた新たな方策として好評であるということです。このような施策についてどのように考えますか、御答弁をお聞かせください。

次に、小中学校の教育課程に福祉教育を導入するやり方です。福祉の実体験です。高齢化社会を迎えて、児童生徒に実体験をさせることで福祉の心を培うのがねらいです。授業は、全学年の道徳、学級活動などの時間を利用しての学習や、施設での体験活動を学ぶのです。中学2年生時には、5人程度のグループに分かれ、地域の老人や障害児者などの身の回りの世話から、ホームヘルパーと協力して介助、扶助での実体験を行うようになっています。

この福祉教育はかなりの教育効果を上げていると言われております。当市でもこのような福祉の体験学習を導入したらどうかと思いますが、いかがですか。

次に、防災問題について1点のみ質問をいたします。某新聞に千倉町教育委員会は町内の各小中学校に救命用の人工蘇生器を置くことになったと報じられております。これは、広域避難所に設置をして救命活動に役立てようとするものです。地震などの災害のとき、けがや病気の場合の初期に施される応急手当の内容が大事と思われますので、こうしたときにこの人工蘇生器は役立つのであります。蘇生器は、人工呼吸器、開口器、酸素ポンプなどを備えたアルミケースのもので、持ち運びのできる軽量なものであるということです。実際に酸素吸入器が学校に備えられていて一命を取りとめたのは船橋市立大穴中学でのことです。中2の男子生徒が体育の授業中に突然心臓停止状態に陥ったが、指導教諭らの機敏な酸素吸入や人工呼吸などで生命が助かった一例です。災害時の救命活動や児童生徒のスポーツの練習時などに起きる心臓停止事故は、最初の数分間の処置が生死を分けると言われています。救命救急対策の上からも最も重要な施策と思います。早急に実施していただきたいと思います。

さらに、きょうもこの壇上でそれに似たようなケースが起きたわけがございますので、市としてもこのような装置を設置することに対して追加で質問申し上げますけれども、この点もお聞きしておきたいと思います。

以上5点にわたり御質問申し上げましたが、御答弁によりまして再質問をさせていただきます。

◎議長（辻田 実君） 庄司市長。

（市長庄司 厚君登壇）

◎市長（庄司 厚君） ただいまの脇田議員の御質問にお答えいたします。

大きな第1、財政問題についての第1点目、市財政の中期展望の御質問でございますが、地方財政は、景気の動向を初め、国の財政あるいは地方の財政計画等に大きく影響されます。自主財源に乏しい館山市といたしましては、今後も都市基盤の整備等に要する財源を地方債に求めざるを得ない状況にご

ざいます。しかし、後の世代に大きな負担を残さないよう、地方債残高の推移に留意した財政運営に努めてまいります。

第2点目、市の人口と財政のかかわりについての御質問でございますが、人口の減少は市税や地方交付税等への影響が懸念されますので、館山工業団地の推進など、若者の就業の場の確保に努めているところでございます。

次に、大きな第2、元収入役の資金運用についての御質問でございますが、現在事実関係につきまして監査が行われている段階でございます。また、市税につきましては市民の血税であり、市民のために有効に活用することは当然のことといたしまして、日常の業務の中で指導しているところでございます。

次に、大きな第3、稲村城址の整備と工業団地計画の調和についての第1点目、稲村城址の整備についての御質問でございますが、稲村城址の整備につきましては、工業団地進入道路を進めていく中で、地権者や地元の皆様の御意見を伺いながら検討してまいりたいと考えております。

第2点目の工業団地の土地分譲方法の見直しについての御質問でございますが、館山工業団地はオーダーメード方式で造成し、分譲する方式になっております。その分譲に際しましては、代金の分割納入等の措置が本年3月から導入されているところでございます。

第3点目、企業誘致の現状についての御質問でございますが、千葉県企業庁では誘致活動の組織の強化を図りまして、インターネットなどによる工業団地情報の提供を行い、推進しているところでございます。館山市といたしましても、千葉県企業庁と連携を図りながら誘致活動に努めてまいります。なお、館山市に対しまして数社の企業からの照会等がございました。

次に、大きな第4、福祉対策についての第1点目、老人福祉センターでの人工温泉装置に関する御質問でございますが、これは御提案として研究させていただきます。

第2点目の銭湯でのデイサービス事業はできないかとの御質問でございますが、これは施設及び設備の改造並びに看護婦等の確保が必要となってまいりますので、現在難しいものと考えております。

大きな第4、福祉対策について、小中学校での問題、それから大きな第5、防災対策についての小中学校の問題につきましては、教育長より御答弁申し上げます。最後の問題はその後で私の方から御答弁申し上げます。

以上でございます。

◎議長（辻田 実君） 高橋教育長。

（教育長高橋博夫君登壇）

◎教育長（高橋博夫君） 大きな第4、福祉対策についての第3点目、小中学校で福祉の実体験について検討したらどうかとの御質問でございますが、福祉教育につきましては、従来から学校教育においても重視しており、高齢者との心の交流、老人ホームでの奉仕活動など、各学校でさまざまな交流を工夫して実施しております。本年度はさらに老人看護などを取り入れたカリキュラムを用意する学校もあり、福祉重視の教育活動は年々充実されているところでございます。

次に、大きな第5、小中学校に人工蘇生器の導入はできないかとの御質問でございますが、小中学校の児童生徒につきましては、心電図検診、その他各種健康診断を実施するなど、健康管理を通じて事故防止に努めております。また、救急救命対策として、小中学校の教諭を心肺蘇生法実技講習会に派遣するなど、心肺蘇生法の知識、技能を習得することにより、緊急の事態に備えております。人工蘇生器の導入につきましては検討いたしております。

以上です。

◎議長（辻田 実君） 庄司市長。

（市長庄司 厚君登壇）

◎市長（庄司 厚君） 追質問の件でございますけれども、先ほどの件、よくなられてまして結構でございました。お喜び申し上げます。

救急救命対策としての人工蘇生器の問題でございますけれども、小中学校と同様、検討してまいります。

以上でございます。

◎議長（辻田 実君） 13番脇田さん。

◎13番（脇田安保君） まず最初、財政問題から再質問させていただきます

す。

大蔵省がことし1月国会に提出した財政の中期展望では、今後の歳入不足をすべて赤字国債で賄うような場合は、名目で年率3.5%の成長が続いたとしても、10年後の2006年には国債残高は482兆円と、96年度に比べ倍増するというような最悪のシナリオを提示しております。当市においても、10年後の財政はやはり大変に厳しいものになると思うのですが、よほどしっかりとした財政計画を持たなければならないというように考えております。

そこで、まず初めに起債の限度額についてはどのように考えておられるのか、この際お尋ねをしたいと思います。

それと、平成7年度の決算状況は前年、要するに平成6年度と比べて上向きなのか、現状維持なのか、その点をあわせてお答えをいただきたいと思いますが、今景気がやや上向きというように言われておりますけれども、ちまたでは今年度は大分倒産が進むのではないかとと言われておりまして、この平成6年度は市として経済的に、あるいは財政的に一番底なのか、これから上向き傾向に財政が向いていくのか、その点もあわせてお聞かせください。

◎議長（辻田 実君） 鈴木総務部長。

◎総務部長（鈴木完二君） 長期にわたります市債の発行等につきましての御質問でございますが、まず市債の発行につきまして、公債費比率あるいは地方債許可制限比率等に留意いたしまして、健全な運営に努めてまいりたいというふうに考えております。

それから、財政は上向きかという御質問でございますが、御存じのように、平成7年度に比較いたしまして、平成8年度におきましては4%程度の低い予算を組んでいるところでございます。さらに、景気の動向につきましてですが、日銀等の予測によりますと、若干上向きになってきたのではなかろうかというふうに予測されているところでございます。

以上でございます。

◎議長（辻田 実君） 13番脇田さん。

◎13番（脇田安保君） 私が聞いているのは、平成6年度は市の財政として一番底なのかどうか、それを平成7年度と比較してどうなのかということ

を聞いているわけ。

◎議長（辻田 実君） 鈴木総務部長。

◎総務部長（鈴木完二君） 平成7年度の決算状況でございますけれども、平成7年度、これはちょっと資料が不足しておりますので十分なお答えができませんが、歳入総額で 176億 6,700万円という数字が見込みとして出ております。歳出総額で 169億 1,200万円ということでございます。剰余金 6億 9,700万円程度を見込んでおりまして、ちょっと申しわけございませんが、平成6年度との比較数字、ただいま手元にございません。

◎議長（辻田 実君） 13番脇田さん。

◎13番（脇田安保君） 整理がちょっとつかないんですけれども、これはまた後ほど — 整理がつかないんで先へ進みますけれども、人口対策についてですけれども、人口増加対策はこの10年間どのような対策を進めてきたのか。基本構想を打ち出したときに6万人という数字を示されております。この点では少し何か漠然としているような感じにとれるんですけれども、もう少し具体的に、どういうふうに施策をつけてきたのか。それから、平成12年の基本計画の目標では5万 4,000人ですけれども、この根拠はどこにあるのか。5万 4,000人という根拠。それと、自然増を含めて年間増加率はどのように見ているのか。その3点お願いします。

◎議長（辻田 実君） 寺嶋企画部長。

◎企画部長（寺嶋 清君） まず、人口対策でございますけれども、これはやはり市の重点施策等の推進を積極的に進めるということと、そしてまたさらにインフラ整備を進めるというようなことから、市民の利便性の向上ということを目標に置きまして定住人口の増加に努めてきております。

そして、今回、今年度スタートいたしました第3期の基本計画で5万 4,000人という推定人口をはじいてのせたわけでございますけれども、これにつきましては、推定人口を計算する計算方式といたしましては4通りばかりあるわけでございます。そのいずれの計算式をとりましても、一応5万 1,000人から5万 3,000人という数字が求められたわけでございますけれども、それに先ほど申し上げました市民の利便性の向上、こういったものによりま

す人口増を期待要素として掲げまして、5万 4,000人という数字をはじいたわけでございます。

人口の増加率でございますけれども、まず増加の要因、根拠といたしましては、ただいま申し上げましたようなインフラ整備等による増加要因というものが一般的に言われているわけでございますけれども、これにはやはり自治体の努力目標的要素がかなりの部分占められているということで、先ほど申し上げましたように、いろいろな施策を進める上で努力していくことが人口増加にもつながるというふうな見方をしております。

以上でございます。

◎議長（辻田 実君） 13番脇田さん。

◎13番（脇田安保君） この議論をしていると長くなりますので、また違う面でやっていきたいと思っておりますけれども、私が考えるのは、もっと具体的に — これは一つの例ですけれども、例えば大型店が館山へ進出する。そのときには、その大型店の従業員は他市から50%ここに住むように、そういう具体的なものが欲しいわけです。そういうような要望を — やはりこれからいろんな面で数字的にきちっとしたものは出していただきたい。今聞いていますと、何かぼやとしていて、何が何だかちょっとはっきりわからないんですけれども、5年後になったら5万 4,000人にできませんでしたて済んじゃうんじゃないかと思うわけです。私が心配するのは、要するにこのまま毎年 — 10年前から減少傾向でずっときて、確かに全国的ですけれども、いろいろな市においてはやっぱりそれなりの対策を考えているわけです、何とか歯どめをしようと。例えば千葉市の市長、100万都市ということで、何とか100万人を目指してやっているわけです。館山市の場合には具体的にこうだというのが出てこないわけです。その点がちょっと私も歯がゆいところがありますので — 今回はこの辺でとめておきます。これは重要な問題ですから、ここだけは何としても時間をとりたいと思っておりますので、ぜひよろしくお願いします。

次に、収入役の問題について、市民が最も知りたいことは、何よりもその当事者が違法という株購入に至った理由をはっきりさせてほしいということ

であります。そうでなければ、市民は素直に税金を納める気持ちになれないとか、もし真相の究明がなれ合いになるようなあいまいな結果になれば、市民は納得しないのであります。これはいろんな人の意見を私も集約しておりますけれども、館山市として過去このような不祥事はなかったというふうに聞いておりますけれども、本当に全国的にもまれだというように言われております。

まず最初に、この資金の運用は地方自治法では確かに確実、有利な方法ということで言われておりますけれども、この資金運用は何年ごろから実質始められたのか。それと、先ほど秋山議員の質問で金額が出ましたけれども、実際に活発に資金運用を始められたのは何年前ぐらいから実質始められたのか、まずその点をお伺いします。

◎議長（辻田 実君） 永野収入役。

◎収入役（永野 修君） 資金運用につきましては、これは御承知のように収入役の権限として現金の出納及び保管があるわけでございまして、この関係については、この問題を起こした収入役、それ以前から収入役の仕事として全力を挙げて運用していた、こういうことでございます。

◎議長（辻田 実君） 13番脇田さん。

◎13番（脇田安保君） 私としては、大体何年ごろから活発に資金運用を始めたのかという数字を、年数を知りたいんですけれども、先ほどの鈴木議員の質問の中でもございましたけれども、株を購入して――配当金の問題ですけれども、先ほど山田収入役のときには3億円の運用益ですか、渡辺収入役のときには6億7,000万、川上収入役のときには5億1,000万円、こういうふうに出ておりますけれども、昭和62年に購入してから配当金が入り始めたのは平成4年からということでありまして、昭和62年に買われてから平成4年までの4年間、その配当金はどこへ行ったんですか。

◎議長（辻田 実君） 永野収入役。

◎収入役（永野 修君） 名義の書きかえをしてございませんでしたので、そのときの名義の方に配当が行っている、こういうことになっております。

◎議長（辻田 実君） 13番脇田さん。



◎13番（脇田安保君） 名義という、大蔵省というふうにとれると思うんですけども、私も先ほど壇上で言ったように、自分の私的な考えでやったのかなというふうに私はとったんですけども、実際にその株を買って、それを1年間——1年目は配当金が来たのか来ないのかわからなかったらそれはいいです。4年間も配当金が来なかったという、ここのところが私はすごく疑問に思うわけです。だから、それは要するにお金の自分の感覚ですか、税金に対しての感覚が余りにも薄過ぎたんじゃないか。自分の本当の身銭を切ったお金だった場合には、利益、配当金、それが1年来なかったとなれば、やはり証券会社なり関係のところに問い合わせするのが一般常識じゃないかと思うんですけども、なぜそれをやらなかったのか、やれなかったのか、その点どうですか。

◎議長（辻田 実君） 永野収入役。

◎収入役（永野 修君） 株式の配当は当然名義人のところへ行くわけですけども、その名義の書きかえをしていなかった、こういうことでございます。したがって、配当はうちの方に入っていなかった。

◎議長（辻田 実君） 13番脇田さん。

◎13番（脇田安保君） では、少しさかのぼって、もとへ戻りますけれども、この株購入のときには収入役の考えでやったのか。証券会社、あるいは関係の金融機関ですか、証券会社と言った方がいいと思うんですけども、証券会社の職員がセールス——今こういう時代だからこれを買った方がいいですよというようなことで買ったのか、収入役の個人的な考えで買ったのか、どちらなんですか。

◎議長（辻田 実君） 永野収入役。

◎収入役（永野 修君） 現在の時点では事実確認を監査委員の方でやっているわけですけども、少なくともこの会計の責任者は収入役でございますので、収入役がそのような判断をしたもの、そういうふうに私は考えております。

◎議長（辻田 実君） 13番脇田さん。

◎13番（脇田安保君） わかりました。

それで — 余り責めても何ですけれども、その当時の収入役は自分の判断で買った、それはそれで結構ですけれども、要するに配当金が入らなかった。入らなかったことに対して収入役だけが — 金利とか配当金とか、いろいろお金が運用していますと入ってきます。その点はほかの人には絶対にわからないことなんでしょうか。

◎議長（辻田 実君） 永野収入役。

◎収入役（永野 修君） 現実の問題として、例えばその運用の実績報告をいたしますので、それに携わった人は当然事実関係としては承知をしているはずでございます。

◎議長（辻田 実君） 13番脇田さん。

◎13番（脇田安保君） 今過ぎてしまったから何とも言えないんですけれども、4年間だれも疑問に思わなかったのかな、そこら辺が不思議なんです。1年間、こういうことはよくわからなかった、だから配当金が入らなかったということでしたら結構ですけれども、4年間そのままにしておいた。これは実際大蔵省へ入ったんだから、取り戻すことはできないんですか、できるんですか。

◎議長（辻田 実君） 永野収入役。

◎収入役（永野 修君） この配当の場合につきましては、名義の変更をしませんで、いわゆる証券会社の保護預かりになっていたわけでございます。その保護預かりになっていた場合には、その場合には混蔵保管といいまして、そういうことになっておりまして、預けてあるわけですから、証券会社は数だけは確保している、そういうような状況の中で証券会社が預かっていたということでございます。

◎議長（辻田 実君） 13番脇田さん。

◎13番（脇田安保君） 私はよく理解できなくなってきたんですが、要するに名義人は収入役なのか、それとも館山市なのか、そこら辺はどうなんでしょうか。

◎議長（辻田 実君） 永野収入役。

◎収入役（永野 修君） 事実関係として私どもが承知しているのは、名義

を館山市に書きかえますと、株の所有というのが当然わかるわけです。そういうものを防ぐというか、そういうもののために名義書きかえをしなかったというふうに私どもは認識しているわけです。したがって、名義は館山市のものになっていないわけでございます。

◎議長（辻田 実君） 13番脇田さん。

◎13番（脇田安保君） そうですか。そうしますと、これはますます買った人の罪が重くなってしまいます。個人のものというふうにとられるんです。2億幾らだったかな、数字はどこかへ行っちゃったんですけれども — 2億8,000万円という数字は個人のもので買ったような感じになっちゃうでしょう。その後5年間個人名義になっているわけでしょう。要するに、元収入役の名前は失礼ですから出しませんが、最初買った人の名義でずっときちちゃっているわけですね、平成4年まで。そうじゃないの。

じゃ、別の角度からお聞きしますけれども、監査委員に今監査中ということですからお聞きしますけれども、今調査中ですから、余り細かいことも聞けないと思うんです。先ほど議員の質問の中でいつできるんだという質問がございました。私はそういうふうな質問じゃなくて、今現在どの程度までその調査が進んでいるのか、例えば何割とか何%とか、その辺をお聞きしたいわけですが、それとあわせて、調査の内容は私は求めません。ですけれども、今までの調査の過程でこのような説明がありましたとか、こういうふうになっていますということをしてできれば具体的にお願いしたい。

それと、せんだって房日新聞に — 5月の12日付ですか、房日新聞の記事にこの問題が掲載されておりました。記事に掲載されている方々の名前はあえて私は伏せますけれども、当然このようないきさつがあったように受け取られますので、この点に関して真偽のほどの調査をなさっているのかどうか、その点を監査委員にお尋ねします。

◎議長（辻田 実君） 山田監査委員。

◎監査委員（山田教和君） お答えいたします。

先ほど秋山議員にお答えいたしましたとおりでございますけれども、現在は事実を確認するために、元収入役を初め、会計課、財政課、監査事務局、

そして市長や助役、元監査委員及び証券会社等の関係人、合計現在まで31人に事情を伺っておりますが、今後とも必要に応じまして継続してまいりたいと考えております。

それから、新聞記事の件につきましては、現在事実確認をしておるところでございます、御答弁は差し控えさせていただきたいと思ひます。

以上でございます。

◎議長（辻田 実君） 13番脇田さん。

◎13番（脇田安保君） 監査中ということで、細かい点を聞くことはできませんけれども、なるべく市民の皆さんも — この結果を何としても知りたいという考えを持っている人がたくさんおります。でありますので、なるべく早く確実な監査をお願いしたいと思ひます。

もう一つ、これは大変失礼ですけれども、同僚議員の川名監査委員に一言お聞きしたいと思ひますけれども……

◎議長（辻田 実君） 行政一般質問ですから、行政に関して議員間のあれは別途またお願いします。

◎13番（脇田安保君） 監査委員としてだめですか。

◎議長（辻田 実君） 暫時休憩いたします。

午後1時50分 休憩

午後1時52分 再開

◎議長（辻田 実君） 休憩前に引き続き会議を再開いたします。

13番脇田さん。

◎13番（脇田安保君） では、監査委員の動議は出しませんので、山田監査委員にお聞きします。

毎月監査、決算も行われたわけです。そうしますと、全くこの問題は疑問としてなかったのかどうか、その辺監査委員としてどのように受け取っておりますか。

◎議長（辻田 実君） 山田監査委員。

◎監査委員（山田教和君） 虚偽の報告でございましたので、全くわかりませんでした。

以上でございます。

◎議長（辻田 実君） 13番脇田さん。

◎13番（脇田安保君） そうしますと — 収入役にお聞きしますけれども、虚偽の — 今監査委員も虚偽という言葉をお使いになりましたので、法的には虚偽公文書作成罪ですか、法律はよくわかりませんが、私の勉強した範囲で、虚偽公文書作成の罪に当たるというふうにとれるんですけれども、収入役として監査委員に報告した文書、これは虚偽公文書作成に値するんじゃないかと私は思うんですけれども。

◎議長（辻田 実君） 永野収入役。

◎収入役（永野 修君） 私もそのように考えております。

◎議長（辻田 実君） 13番脇田さん。

◎13番（脇田安保君） わかりました。そこをお聞きいたしますれば、この問題は急激に解決に向かっていくわけではないかと思うんですけれども、もう一点 — 細かいことはまた後ほど違う面でやりますけれども、最後に市長にお聞きしておきたい。最後の部分です。

市長として — 最高、トップ。館山市株式会社、会社でいえば社長です、トップですから。そのトップが要するに — 部下というふうに言ったら言葉は悪いんですけれども、その部下がこのような事件を起こした。それに対して市長はどのような責任を感じているのか。例えば、監査報告がこれからなされたら被害額が決まってくると思いますけれども、その場合に起訴ということを考えておりますか。

◎議長（辻田 実君） 庄司市長。

◎市長（庄司 厚君） この問題につきましては、まことに残念に思います。市民の信頼にこたえるのが我々の仕事でございます。そういう面から本当にあってはならぬ。残念でございます。きちっと対応してまいって、市民の納得のいく処理をしたい、こういうふうに考えております。

◎議長（辻田 実君） 13番脇田さん。

◎13番（脇田安保君） 私が聞いたのは、責任ということを一言つけ加えていただきたかったなと思いますけれども、それはまたお聞きしますけれど

も、この問題は大変に市民も — また、一番大変なのは、やっぱり職員一人一人がすごく肩身の狭い嫌な思いをしているのが今の現状じゃないかと思うんです。ですから、やはり市民が納得するような方向で決着をつけていただきたい。そのためには、市長は勇断をしなけりゃならないこともあると思います。ぜひ明快なる解決策をつけていただき、皆さんから本当によかったと言われるような結論をひとつお願いしたいと思います。

次に移る時間ありませんから、これで終わります。

◎議長（辻田 実君） 以上で13番議員脇田安保さんの質問を終わります。

次に、3番議員三上英男さん。御登壇願います。

（3番議員三上英男君登壇）

◎3番（三上英男君） 残土について3点ほど御質問いたします。

最近、地球規模で異常気象が起きております。日本でも、この冬は低温、またここにきて少雨の現象が身近にあらわれております。この異常気象の原因の一つに熱帯雨林の伐採が挙げられています。地球に降り注ぐ太陽エネルギーをやわらかく受けとめる緑の働きは言をまたないところであります。この大切な緑を守っていこうとする動きは、今や人々の間に浸透し、定着しつつあります。

このようなときに、館山市にはこれと逆行するようなことが行われています。それは、県外からの残土搬入であります。首都圏から出る厄介者の残土を商売として持ち込んできているわけであります。特定の企業のために大勢の市民が迷惑をこうむっているわけであります。これが一時的なものならまだしも、数年あるいは十数年続くものであるとすれば、規制をしなければならぬと考えるわけであります。

さて、この残土搬入で問題になることは、まず森林の破壊であります。その結果は、緑の減少、水資源の枯渇、これを来すわけであります。緑の保護と水資源を守ることは、言いかえれば命を守ることです。次に、環境の汚染であります。有害物質が含まれていようがまいが、大量の土砂は環境に大きな影響を及ぼすのです。さらに、有害物質が基準値を超えて含まれていた場合は一体どうでしょうか。これは取り返しのつかないことになるの

です。私はこの残土に大変疑問を持っております。しかし、調べるすべがありません。

そこで、市の土砂等による土地の埋立て、盛土及びたい積行為の規制に関する条例——余りに長いので、以下、便宜上残土条例または条例と言わせていただきますが、この条例でうたっている土砂等という定義にこの残土が合致しているのでしょうか、明快なるお答えをお願いいたします。

また、この条例は、そもそも県外からの残土を念頭に置いて制定したのではなく、市内における500平方メートルを超える宅地造成等を対象にしたものであり、これをもって残土に対応することは不適であると考えますが、いかがでしょうか、お伺いいたします。

しかし、既に許可したもの、あるいはまさに許可しようとしているものに対して、条例の適用が大変甘いようであります。申請前に工事にかかったり、あるいは搬入を開始したり、大変な違反をしております。これらに対してどのように指導、警告等をしてきましたか、お答えいただきます。

また、申請時に提出する書類の中の隣地の同意書、水利権者の同意書などは完全でしょうか。またこれは再質問でお聞きますが、完全であるかどうか。事業の進捗状況の報告は適宜請求していますでしょうか。立入検査は十分でしょうか、お伺いいたします。

次に、農業委員会にお尋ねします。今、委員会許可の埋め立て事業で一時停止になっているものがあるようですが、その後どうなっていますか、経過をお知らせください。

以上3点、お答えによりましては再質問させていただきます。

◎議長（辻田 実君） 庄司市長。

（市長庄司 厚君登壇）

◎市長（庄司 厚君） ただいまの三上議員の御質問にお答えいたします。

大きな第1、残土問題でございます。最初の残土の性格につきましては、先ほども出ましたけれども、部長から答弁いたさせます。

県外からの残土はいわゆる残土条例の適用外とすべきではないかという御意見でございますが、市外からの残土の持ち込みにつきましては、市の残土

条例制定の目的からして、適用外とすることはできないものと考えております。

大きな第2の県外からの残土に対します市条例による対応についての御質問でございますが、市の残土条例は、土砂等による土地の埋め立て等の行為につきまして、環境の保全を図るため必要な規制を行うもので、今後とも条例の適正な運用に努めてまいります。

埋め立て許可後の農業委員会の問題につきましては、農業委員会より御答弁申し上げます。

◎議長（辻田 実君） 黒川農業委員会会長職務代理者。

（農業委員会会長職務代理者黒川市之助君登壇）

◎農業委員会会長職務代理者（黒川市之助君） 三上議員の御質問にお答えいたします。

大きな第3、埋め立て許可後の指導、監督をどのようにされていますかということにつきましてお答えいたします。埋め立て許可後の指導、監督についてでございますが、残土利用による農地造成につきましては、農地法に基づく転用の許可申請が必要となりまして、千葉県知事の許可を受けて埋め立てができることになっております。したがって、当委員会といたしましては、転用に伴う埋め立て許可後、工事の進捗状況を把握するとともに、工事が完了した場合は、速やかに許可条件が遵守されているか現地調査を実施し、調査報告書を添えて県に進達しております。

以上でございます。

◎議長（辻田 実君） 小沼経済環境部長。

◎経済環境部長（小沼 晃君） 残土について御説明申し上げます。

先ほども鈴木順子議員の御質問にお答えしたところでございますが、市のいわゆる残土条例の第2条第1項でございますが、残土の定義といたしまして、廃棄物の処理及び清掃に関する法律第2条第1項に規定する廃棄物以外のもので、土地の埋め立て、盛り土及び堆積行為の用に供するすべてのものを言うということで規定してございます。ここで、廃棄物の処理及び清掃に関する法律第2条でございますが、この法律におきましては、廃棄物とは、



ごみ、粗大ごみ、燃え殻、汚泥、ふん尿、廃油、廃酸、廃アルカリ、動物の死体その他の汚物または不要物であって、固形状または液状のものを言う。放射性物質及びこれによって汚染されたものを除くというふうに定義がなされております。さらに、厚生省の環境衛生局長通知でございまして、廃棄物の定義の次に、なお次のものは廃棄物処理法の対象となる廃棄物ではないということで、土砂及び専ら土地造成の目的となる土砂に準ずるもの、これは廃棄物とはしないという局長通知がございます。

それから、御質問の中に、いわゆる既に事業をしている、そういう業者に対する指導をどうしたかという御質問がございましたんですが、昨年でございますが、事業の中止を命じまして手続をとられた、そういう経緯がございます。それから、巡回等でございますが、おおむね月1回程度巡回をいたしております。

以上でございます。

◎議長（辻田 実君） 3番三上さん。

◎3番（三上英男君） 今のお答えの中、また鈴木順子議員へのお答えで、それについては十分理解しておりますが、ただし、この廃棄物の中に汚泥というところがございます。この汚泥の扱いが言ってみればポイントで、これが混入していない、または汚泥ではないという証明、そういったものを我々は要求したいわけです。決して汚泥じゃない、その証明がとれますでしょうか。

◎議長（辻田 実君） 小沼経済環境部長。

◎経済環境部長（小沼 晃君） 一般的に汚泥ということになりますと、非常に液状に近い状態のものが言われるんじゃないかと思います。ある程度目視でもこれは確認できるんじゃないか。ただ、脱水をしたものにつきましては、これは非常に不明瞭になるわけでございますが、今後そういう土質の調査関係につきましては、3月議会でもお答えをいたしてございますが、土質を検査したもの、そういうものの提出をさせるということでその辺はチェックをしてまいりたい、このように考えております。

◎議長（辻田 実君） 3番三上さん。

◎3番（三上英男君） 今部長のお答えの中で、汚泥というのは液状のような、言ってみればどろどろしたものが汚泥であるというような観念があるようですが、汚泥というのは字のとおり汚染された泥です。決してどろどろしたもののみが汚泥ではないということから考えていかないと——考えてみても、どこかの汚水槽の沈砂を上げたとか何とかということでしたら、これはどろどろしております。しかし、経済活動が行われておった跡地というのは、見た目には土砂に近いものであっても、それは場合によっては汚泥に入るということは十分考えられるわけです。ですから、見た目で云々というのは、これは当たらないと思っております。ですから、汚泥が含まれていないという証明、これはかなり厳しくしないとわからない。その厳しくしないとわからないということが厳しくないということであって、そのこのところの検査体制、あるいは市がどういうふうなそれに対して行動をしておるか、その点をお伺いいたします。

◎議長（辻田 実君） 小沼経済環境部長。

◎経済環境部長（小沼 晃君） 今汚泥ということで三上議員さんからそういうお話があったわけですが、私ども廃棄物の中で言われております汚泥というのは必ずしも汚染された土壌という意味ではないというふうに解しております。ただ、今御質問がございましたように、汚染された土壌のチェックでございますけれども、今後は例えば発生先等の確認——そういう意味で、事業者の方から発生元を明らかにし、発生場所及び工事名等についての報告を定期的に求めてまいりたい、このように考えております。それから、これまたお答えの繰り返しになりますけれども、いわゆる含まれている内容物につきましては、土壌検査を事業者の方に義務づけてチェックをしてまいり、ないしは必要に応じて市の方でもそういう検査は実施していく、こういう考えでございます。

◎議長（辻田 実君） 3番三上さん。

◎3番（三上英男君） 申請時に土砂の成分表が添付されていたわけでしょう、今まで。ところが、それでもって何千立米、何万立米という土砂をある時期まではすべて通しておるということが今までされておったわけです。部

長の言われるように、定期的に検査するというのであれば、それが申請時の成分表と違っておるということが、違っているかいけないかということがわかるわけですが、それを数万立米運んだ時点でこれが違っていたというようなことも起こり得るわけです。ですから私は、この発生場所の申告とかということを義務づける以前に、いま一度この残土の搬入される経路、これらを十分認識しておいて、なるほど、こういうところから来ておるんだということであれば、これは汚泥の混入することも考えられるという、そういったことは当然把握しておくべきであると思います。

また、汚泥についてですが、汚泥とは決してそういった、言ってみれば水分とまじったような——水によって汚染されているものばかりじゃないということ。例えば工場跡地など、油によって汚染されておるということは、これはやはり汚泥であります。ですから、汚泥の認識が若干甘いと言わざるを得ません。その辺どうでしょうか。

◎議長（辻田 実君） 小沼経済環境部長。

◎経済環境部長（小沼 晃君） 汚泥の認識が甘いというふうな御質問でございますが、私先ほど申し上げましたように、廃棄物で言われている汚泥でございます。ですから、ただいま三上議員さんのおっしゃっておられる汚染された土壌というのは廃棄物で言われているところの汚泥とは違う。ただ、そのチェックについては、土砂等の検査を実施することによってそういう内容をきちんと検査をしていく、こういうことでお答え申し上げているものでございます。

以上です。

◎議長（辻田 実君） 3番三上さん。

◎3番（三上英男君） この汚泥に対しての意見の違いというのがちょっとはっきりしてきちゃったんですが、部長の言われるのは多分浄水場とか処理場とかの、そういったところのもの。これは当然産業廃棄物に入るということはわかります。ですけれども、汚泥としてうたっている以上は、やはり汚染された泥。その中には放射性物質等によって汚染されたものを除くとあるように、ある面では広く汚染されている泥と理解していいんじゃないかと私

は思っております。ですから、あくまでその汚泥がただ単に浄化槽とか浄水場とか、水と関係しているどろどろしたもののみにとらえているということが問題じゃないかと思います。ですから、私は百歩譲って、じゃそれでもいい。そういうもののみを汚泥と言うんだと譲っても、それがまた混入していないという保証はどこにもないわけです。ですから、その汚泥が混入していないという証明がとれない限り、これは市の埋め立て条例で言うところの土砂には該当しないという見解を私はっております。いかがでしょうか。

◎議長（辻田 実君） 小沼経済環境部長。

◎経済環境部長（小沼 晃君） ちょっと私の答弁に舌足らずなところがあったのかなという気もするんですが、汚染された土壌を残土として私どもは申し上げているわけではございませんで、当然土壌検査の結果等で、例えば重金属等に汚染されている土壌というふうなものにつきましては、私どもの方もこれは残土、いわゆる廃棄物でない残土というような見方はしない、こういう考えでございます。

以上です。

◎議長（辻田 実君） 3番三上さん。

◎3番（三上英男君） そうしますと、やや今の御意見を伺って—— そうしますと、今の状態であれば、これは混入している危険性があるので、直ちに条例で定めているところの土砂と言うわけにはいかないということでしょうか。

◎議長（辻田 実君） 小沼経済環境部長。

◎経済環境部長（小沼 晃君） はっきり汚染されているというものであればそういうことになりますが、おそれがあるという予断の段階では判定はちょっと困難かと思います。

以上でございます。

◎議長（辻田 実君） 3番三上さん。

◎3番（三上英男君） 今のあれだと、該当しないわけではない。該当するということにとれるんですが、しかしその証明—— 言ってみれば、確かに入っていません、そういう混入の兆候は経路上どこにもありませんという証明

はとれますでしょうか。

◎議長（辻田 実君） 小沼経済環境部長。

◎経済環境部長（小沼 晃君） 証明というよりも、先ほどからお答えしておりますように、土質のいわゆる検査されたものを、検査証をお出しいただくということでそういう判断はできるのではないのかな、このように考えます。

◎議長（辻田 実君） 3番三上さん。

◎3番（三上英男君） 今行われている搬入の土の状態を見てみましても、これは紙切れ一枚の成分表ですべてよしと言うわけにはいかないと思います。ですから、それに対してそういう疑いがないと言い切るのであれば — 疑いがないというか、そういう検査体制をとっておるので心配がないというようなことであれば、今日までの数年間においてそういう検査等をされた実績がありでしょうか。

◎議長（辻田 実君） 小沼経済環境部長。

◎経済環境部長（小沼 晃君） 既に現在そういう事業をされているところがあるわけでございます。そういうところにつきましては、事業者の方からそういう検査されたものを御提示いただいて、市の方で確認をしている。それから、土質だけではございませんで、水質等につきましても、いわゆる事業者負担ということで水質検査もお願いしておりますし、市の方でもフォローする意味で水質検査を独自に実施をしている。一応そういう形でのチェック体制等はとっているつもりでございます。

以上です。

◎議長（辻田 実君） 3番三上さん。

◎3番（三上英男君） そうしますと、私はこの土に関して条例に適合していないということを主張しておるわけですが、市の方としましてもこれはそういう危険性があるという御認識でしょうか、それとも全くもうその心配はないということなんでしょうか。

◎議長（辻田 実君） 小沼経済環境部長。

◎経済環境部長（小沼 晃君） いわゆる土質の検査証の提出をいただくと

か、それからいわゆる発生場所等の、そういうものを定期的に御報告いただくとかという措置をとっているものもございますし、これからそういう方向でいくというふうに考えているものもあるわけですが、いわゆる故意ではなくとも、そういう懸念は全くないという認識は持っておりません。そういう懸念があるということで、万全を期する意味でそういうチェックないしはそういう報告をお願いをするないしはしていく、こういうことでございます。

◎議長（辻田 実君） 3番三上さん。

◎3番（三上英男君） 大体わかりました。

といいますのは、数%ぐらいの混入はあるんじゃないか。数字的には言えません。数%だか何だかわかりませんが、そういう懸念があるということは、これは純然たる法で、条例で言っている土砂という定義には当てはまらないということになるかと思います。この土砂ということに当てはまらないのであれば、他の条例あるいは法律を適用しなければこの搬入は認めることができないということになります、いかがでしょうか。

◎議長（辻田 実君） 小沼経済環境部長。

◎経済環境部長（小沼 晃君） そういうおそれがあるということだけで、ただいまの御質問ですと、別の法律扱いというような御質問でございますけれども、はっきりそれが確認できれば、そうであるということであれば、御指摘のような対応をとることになると思いますけれども、予見だけで他の法律によって適用するということはやはりなじまないのではないかな、こういうふうに考えます。

◎議長（辻田 実君） 3番三上さん。

◎3番（三上英男君） それでは先へ進みませんので、予見だけではできないのであれば、検査体制を確立していただきたいということであります。次のことと関連しておりますので、これは残土条例の土砂と県外からの搬入残土が必ずしもイコールではないというところはお認めになったかと思いますが。

それから、既に許可されたもの、あるいはまさにこれから許可しようとし

ているものの中で、いろんな条例で許可条件を与えているわけですが、主に  
出野尾大久保地区、これは既に仮設道路はできております。これは今おっし  
ゃったように中止させたということでしたけれども、中止といいますと、ち  
ょっとわからなかったんですが、どの程度中止されたか、ちょっとその点を  
確認しておきます。

◎議長（辻田 実君） 小沼経済環境部長。

◎経済環境部長（小沼 晃君） 先ほどお答えしました中で、いわゆる残土  
条例の許可申請の手続をしない中で実施していた件について中止を命じ、申  
請の手続をとらせたというところは、今の御質問ですと、出野尾の大久保と  
いうお話でございましたんですが、その中止を命じて申請書を御提出いただ  
いている場所は神余でございます。出野尾についてはそういうケースはござ  
いせん。

以上です。

◎議長（辻田 実君） 3番三上さん。

◎3番（三上英男君） 出野尾の大久保地区って、御存じのように仮設道路  
ができたところですよ。それについて、あれも既に見切り発車というか、申請  
前の違反行為ということに我々は思っておりますが、それに対してどのよう  
にお考えでしょうか。

◎議長（辻田 実君） 小沼経済環境部長。

◎経済環境部長（小沼 晃君） 出野尾のその進入道路を造成した箇所でご  
ざいますけれども、あそこは進入道路を鉾津によって建設をしたということ  
でございまして、鉾津というのはいわゆる残土ということではございません。  
したがって、あそこのケースにつきましては、まだ残土条例の適用という  
ことでございせんので、市の方から中止を命じたという経緯はございま  
せん。

以上でございます。

◎議長（辻田 実君） 3番三上さん。

◎3番（三上英男君） 事業を始めるに当たって、仮設道路というのは、本  
当にそれが条例に抵触するかどうかというのは判断が難しいところだと思

ます。しかし、やはり当事業に対しての仮設道路でありますので、本来それが何のための道路であるかということを考えた場合、やはりこれは申請前の違反行為ということになると私は考えます。これは県の事前協議の対象になったということで、市側は — 逃げると言うのであればすけれども、逃げておるようですが、その埋め立て行為をするための仮設道路であるわけで、やはりこの仮設道路を含めての申請ということが必要じゃないかと思いますが、今後のためにそれはどうなんでしょうか。

◎議長（辻田 実君） 小沼経済環境部長。

◎経済環境部長（小沼 晃君） 残土をそこに埋め立てるという申請があって初めて残土条例の適用ということになろうかと思います。したがって、道路だけで、その時点で市の方に残土を埋め立てますよというような、そういう手続的な行為がなされないうちは、市が中止命令を行うとかというのは、これはちょっと成り立たないと思います。

以上です。

◎議長（辻田 実君） 3番三上さん。

◎3番（三上英男君） その件のことについては、今後同様のことが起きた場合に、申請がないうちはもうしょうがないんだ、残土でやるという申請がない場合はそれには触れないんだということですが、これはもっとほかの法律というものがあるかと思いますが — 今回勉強してきませんでした。これは今回これだけにしておきますが。

それから、申請書類の中で重要な隣地の同意書、これについてお尋ねしますが、広大な面積の中に一部事業を計画して行うといった場合、周りの余白の部分、言ってみれば事業をしない部分、それに隣接するところは同意をとらなくてもよろしいのでしょうか、それとも平面上全部同意書をとるのが原則であるかどうか、それをお伺いいたします。

◎議長（辻田 実君） 小沼経済環境部長。

◎経済環境部長（小沼 晃君） 条例の考え方の中では、例えばその埋め立てする場所のさらに周囲にいわゆる御自分の土地があって、それから他人の土地に接しているというような場合に、ほかの法律の中では、その場合には



他人の土地まで同意は及ばないというようなこともあるようでございますし、残土条例の方も基本的にはそういう考え方でございます。ただ、周辺の皆さんの御理解をいただくというような形の中で、今回の出野尾の件につきましては、自分の土地を越えた他の隣地まで同意をいただいている、こういうことでございます。その同意書がついております。

以上です。

◎議長（辻田 実君） 3番三上さん。

◎3番（三上英男君） じゃ、この同意書については完全ということで理解してよろしいですか。

それからあと、水利権の問題ですが、聞くとおるところによりますと、この水利権——申請書には単体で水利権の同意書というものをつけるように義務づけられております。今回の申請書には単体ではついていない。何かの同意書の中に水利権について同意を求めているということで、どうも単体で水利権の同意書ということが出ていないように聞いておりますが、その点どうでしょうか。

◎議長（辻田 実君） 小沼経済環境部長。

◎経済環境部長（小沼 晃君） 水利に関します同意につきましては、御質問のとおり、何々水利組合としてのいわゆる同意といいますか、協議といいますか、そういうものではなくて、区としていわゆる同意する旨の協定書が添付をされております。

以上です。

◎議長（辻田 実君） 3番三上さん。

◎3番（三上英男君） そうしますと、申請書でそのようにうたっている、申請時にこれこれは添付せよとなっているわけなのに、水利権についてはかなり軽く扱っている。まして、慣行水利権——これは私余り勉強しておりませんが、こういうものもある。それから、近くに井戸で生活している人がいる。そういう人の同意などもとれていない。これについて——慣行水利権、また井戸の所有者に対しての同意、これなんかについてはどうでしょうか。

◎議長（辻田 実君） 小沼経済環境部長。

◎経済環境部長（小沼 晃君） いわゆる慣行水利権でございますけれども、この慣行水利権といいますのは、いわゆる河川法で定められています河川、それから準用河川 — これについてはいわゆる許可水利権と言うわけですが、それ以外の河川について、いわゆる普通河川ですか、そういうものについて、従前から水利用というような形での水利権を慣行水利権というふうに言われているということでございます。そういう意味で申し上げますと、例えば岡田区、出野尾区、区でもってそういう水利を総括的に管理しているということだとすれば、いわゆる今御質問の慣行水利権に基づく同意はなされているというふうに私ども判断をしております。

以上でございます。

◎議長（辻田 実君） 3番三上さん。

◎3番（三上英男君） これはまたほかの方もやりますので。

それと、報告の徴収というところが条例にあるわけです。これは、進捗状況の把握のためにはやはり一定期間ごとに報告の徴収というのをしなければならないと思っております。にもかかわらず、その徴収が一度もないというようなことを聞きましたが、それに対していかがでしょうか。

◎議長（辻田 実君） 小沼経済環境部長。

◎経済環境部長（小沼 晃君） 進捗状況でございますけれども、先ほどもちょっと御説明しましたように、おおむね月1回程度巡回をいたしております。そういう中で、やはり市のサイドとしても状況の把握ということはいたしておるわけでございます。今の御質問の報告でございますけれども、必要があれば請求をして報告を出していただく、こういうふうな考えでございます。

以上です。

◎議長（辻田 実君） 3番三上さん。

◎3番（三上英男君） これは計画書どおりの搬入量その他を把握するためにはやはり必要じゃないかと思っておりますので、ぜひ定期的な報告の徴収をお願いしたいと思っております。

それから、立入検査につきまして — この間、4月の5日に環境保全課の

課長補佐、係の方と私と3人で水を採取しました、ある現場から。それに対して、その検査をしなかった。何かの形で、どういう圧力がかかったか知らないけれども、検査しなかった。その理由をちょっとお教えてください。

◎議長（辻田 実君） 小沼経済環境部長。

◎経済環境部長（小沼 晃君） それは佐野の方の場所のことではございませんか。検査をしなかったということではないと思います。当初はpHの高い水があるというようなお話がございまして、市の方も環境施設センターでとりあえずpHだけであれば検査ができるということで検査いたしました。その後さらに当該事業地の3カ所から採水をいたしまして、これは事業者、それから検査業者、それに市が立ち会いまして、その場で容器に詰めまして、検査業者に持ち帰ってもらって検査をいたしました。検査をしなかったという、そういうことはないというふうに私は考えております。

以上です。

◎議長（辻田 実君） 以上で3番議員三上英男さんの質問を終わります。

暫時休憩をいたします。

午後2時40分 休憩

午後3時02分 再開

◎議長（辻田 実君） 休憩前に引き続き会議を開きます。

18番議員日下君敏さん。御登壇願います。

（18番議員日下君敏君登壇）

◎18番（日下君敏君） さきに通告いたしてございます5項目につきまして、通告質問をいたしたいと存じます。

とりあえず読み上げますと、第1が沼海岸通りの土砂公害について。沼海岸地区の住民は、港での作業で大変な生活を強いられております。健全な生活ができるよう妙手はございませんかということでございます。

第2点目が下町交差点のダンプ公害についてでございます。下町交差点を中心にダンプ公害が激しく、商店街は今や買い物すらできない状態でございます。何かよい解決策はありませんか。

第3点目が国民健康保険税の増税についてでございます。国民健康保険税

が今年度また大幅に増税されます。今や国民健康保険税は負担の限度にきております。市は財政の投入を増大すべきだと思いますけれども、いかがでございましょうか。

第4点目が国民宿舎鳩山荘の民営化についてでございます。鳩山荘は年々赤字経営が続いております。ここらで官営から民営へ切りかえるべきだと思うんでありますけれども、いかがでございましょうか。

第5点目が、先ほど来数人の方々で行っております — 同じ問題でございますけれども、元収入役のNTT株購入についてでございます。NTTの株売買は違法だと思いますが、いかがでございますか。また、実際に損失が生じたとき、だれがどのような負担をすべきでしょうかということで御通告申し上げましたんでございますけれども、株売買は既に違法であるということ为先ほどから御答弁でいただいておりますので、ここは少し変えまして、違法だとすると、どの程度の違法なのか。30%違法なのか、それとも120%違法なのか、もしこの壇でお答えできればお答えいただきたい。もしそれが、突然でございますから、できないということであれば、再質問でさせていただきます。

順次この5点につきまして御説明かたがた質問をさせていただきますけれども、市御当局には簡潔な御答弁を御期待いたすところでございます、時間の関係もございますものですから。

第1点目の沼の海岸の問題でございますが、御案内のように、この沼地区の当該港湾地区は、館山市の都市計画で申しますと、用途区分が準工業地帯でございます。この準工業地帯と道路を1本隔てまして、こちらに民家があるわけでありまして、この民家は第1種住居地域ということになっておるわけでありまして。準工業地域でございますから、当然港湾作業その他の経済活動が活発に行われているわけでありまして、ここの悲劇というか、それは、本来なら準工業地域と住宅地域というのは通常のケースですと相当緩衝地帯のようなものがありまして、直接には工業地域でのそういう騒音とか土砂とかほこりとかというものは来ないわけでありまして、当該地域はそういった緩衝地域がございませんものですから、直接住民に対しての、

苦情のようなものが出てくるんだというわけであります。

この問題は結構古いわけでありまして、昭和62年6月に、この地域が大変 — あそこの、業者が出まして砂利を積んだものですから、大変な苦情が出まして、私自体も多少はかかわらせていただいたんでありますが、昭和62年6月に、当該9業者でございましたかしら、それと地元の区長さん、さらには連合区長会長と、館山市長が立会人になりまして協定書を結んだわけであります。その協定は、自分が言うのもおかしいんですが、結構できのいい内容でございまして、経過的に申し上げますと、この協定が — 平成6年に至りまして、旧協定書と申しますか、これを破棄いたしまして、新しく協定を結んでおります。内容はほぼ同じようなものでございまして、公害が出たときは公害を防止するよう努力いたしますよ、時間はきっちり守っていたします、立ち入りしても構いません、内容は同じであります。ただ、この新しい協定書では前の協定は破棄します、こういうことになっておりますから、現在はこの平成6年に締結されました協定書に基づいて、これが現に生きている、こういうことだろうと思うんです。この新しい協定書は、今度は業者ではございまして、当該業者が館山湾臨港事業協同組合という協同組合をつくりましたから、この協同組合と、それと、各区長ではございまして、館山地区の連合区長会長さんと、それと館山市長が立ち会いでこれを結んだ、こういうことでございます。

この協定どおり事態が運べばどこからも苦情が出ないんでありますが、結構このままずっと — 果たしてこのとおり行われていたかというのと、なかなか行われていなかったわけであります。ですから、一番多いのは、そこのほこりが非常に飛んでくる。ですから、夏なんかもうとんでもない。洗濯物も真っ白になってしまう。真っ白というか、真っ黒というか、ほこりだらけになってしまう。さらには、時間帯とすれば朝の6時から午後の7時までになしてくださいよ、それ以降のときは必ず通告してくれというような内容になっておるんですけども、それが徹底されていない。特に夜間の作業が多くて、大分寝られないというようなことが起きているわけであります。そこで、この問題について、市御当局でひとつ解決策をやっていただければありがたい

ということで御質問をしたわけであります。

第2点目が下町商店街のダンプでございます。この沼の — ただいまの1点と大変関連いたすのでございますけれども、ここの港湾でのダンプが — 一つは、神奈川県の方からかどうか、要するに向こう、千葉県以外から海を越えて持ってきた土砂を埋め立てのためにダンプが当然通る。さらに、館山の奥の方からの砂利も通るということで、特にこの商店街、あの下町地区の商店街は道路が大変狭いものでございますから、交差点になるとほとんどすれすれなんです、ダンプとダンプが。ダンプと乗用車でいっぱいですから。これは大分問題になりまして、いろいろ市の御当局にもお話しし、何かの会合で話が出ているのでございますけれども、なかなかしっかりした解決策が見出せないということであります。今すぐということではないんでしょうけれども、何か一つルールを決めるような、あるいは最徐行いたして — とにかく、今は商店街で買い物もおちおちできない、向こうへ渡っていくのさえ怖いんだというような苦情も出るようなわけでございますから、直接館山市がそのダンプ業者を規制できないまでも、市としての政策というか、やっていただきたいと思うわけであります。庄司市長は市民とともにある市政ということをもットーにしておりますから、ひとつそういうことでお願い申し上げるところでございます。

第3点目が国保税、国民健康保険税でございます。これは6月で決算しましたから、その内容をお聞かせ願いたいと思います。歳計剰余金といいますか、簡単に言えば黒字の決算をなしたようでございますが、このうち税の軽減にはどの程度のものを充てるのか、第1点お聞きいたしたいと思います。国保税は、これは私も何度か質問させていただきましたが、これも即効薬がない大変な問題でございますが、とにかくこの問題についてもやはりここで重要な施策をしてもらわなきゃならんのかなということで御質問をいたしておるわけですが、第1点目がそういうことで、歳計剰余金の金額と、さらにそのうちの税の軽減に充てられるものはどの程度の金員なのかお聞きいたしたい。

それと、第2点目が、今年度1人当たりの均等額と1世帯当たりの平等額

が大幅値上げになります。簡単に数字を述べますと、1人当たりが、去年が9,600円、これが1万4,400円、1世帯当たり1万2,000円が1万8,000円になる。何と50%の大幅増税でありますので、景気がこんなに悪い中でこういう増税をいたしますと、またまた国保税を払わない世帯がふえてくるんじゃないかなというような懸念もございます。なぜ今かような大幅な増税をいたさなくてはならないのか、その理由をお聞かせ願いたいと思います。

第3点目が一般会計からの繰り入れでございます。館山市は半澤市政のときについに——昭和63年でございましたか、半澤市長は、原則として受益者負担でございますから、そういうのはいたさない、一般会計からの繰り入れはいたさないと言いつつも、ついに昭和63年から一般会計からの国保会計への繰り入れを行った。そのときのルールは今でも不変でございますが、前々年度の不納欠損額と前年度の減免額、つまり税金を取らなかった分と税金を取れなかった分の補てんを行ってきておりますが、これは毎年2,000万円前後だろうと思います。しかしながら、今やこれではもうやりきれなくなっておるんじゃないか。私が申しますれば、国保税はもうそろそろ負担の限度にきているというふうに思うわけであります。でありますから、ひとつ一般会計からの繰り入れについて、新しいルール等々をつくってもっと積極的に投入をいたす考えはないか。以上のことをお聞かせ願いたいのであります。以上3点でございます。

第4点目が国民宿舎鳩山荘でございます。この国民宿舎鳩山荘は、昭和35年に鳩山家から館山市に寄贈いただきまして、市としては国民宿舎として今でも経営しております。もう36年経過いたしましたわけであります。国民宿舎という性格上、これは赤字体質では困るんでしょうけれども、今まではほぼとんとんないし多少の黒字で経営してきたと思うわけです。特に営業利益においてはそうであります。ただしかし、ここに至って昨年及び一昨年は営業利益に大変な赤字が出た。営業利益で言いますと、平成6年度が940万円、昨年度は1,900万円の赤字になったわけであります。今年度につきましても、この1,900万円というふうにきているものを——今年度も赤字でくるのかな、あるいはとんとんあたりだというふうな説明はちょっと受けておりますけれ

ども、いずれにしても大変な営業赤字が出ております。このほかに、館山市の方から既に2億8,000万円程度の一般会計からの繰り出しを行いまして、この鳩山荘の援助をしております。これは営業的ではなくて、建物の増改築等々に使っておりますが、それを除きましても、営業的にこう赤字がふえますと、もうこれはいわゆる官営でやっていくべきではない。既に国民宿舎としての当初の目的は達したと思うわけであります。大体、隣にあります国民休暇村も、国民なんてつくちょっと古臭いからということで、国民というのを取りまして、休暇村というようなことになっております。もうこの辺で鳩山荘も——国民宿舎というといかにも古めかしいし、当初の目的も達したと思いますので、ここで民営化をいたすべきではなかろうか、かように思うところでございます。そういう御質問をいたしたいと思っております。

最後が元収入役のNTT株の購入でございますが、これは先ほど来数人の議員からの質問がございまして、おおむねダブるようなことになりますんで、なるべく問題がダブらないようにしていきたいと思っております。

先ほど申しましたように、違法であるかどうかということは、違法であるという御回答をいただきましたから、ですから違法でなければどの程度違法でないのか、もしそれが出てくればお答えをいただきたいと思います。この問題はどうも聞けば聞くほど不可解でございまして、もっとも我々は調査権を持っていませんから、先ほど来のように、市長の方から監査請求が出て、ただいま監査委員の方で監査いたしておる。ですから、我々もそれを全面的に信頼しておる、そういうことでございますけれども、なおもう二、三点ひとつお聞きいたしていきたいなと思うわけでございます。とりあえずお聞かせいただきたいのは、違法であるかどうか、どのぐらい違法なのか。

それと、含み損が今出ているわけで、確実に今損だということではなかろうと思うんです。私は株をやらないんですが、同僚議員の一人がきょう電話で聞きましたら、81万円だそうでございますから、一体どの程度の評価損になるかわかりませんが、膨大な含み損になる。これが今のところはまだ損金にはなっていないということだろうと思うんです。損が確定していない。売った段階で初めて、株を私はやっていませんが、損益が出るんだろうと思い



ますが、さて、そうなったときにどのような御措置をなさるのか。

とりあえず通告してしまいましたものですから、御質問いたしまして、御答弁をいただきました後で再質問をさせていただきたいと思います。

◎議長（辻田 実君） 庄司市長。

（市長庄司 厚君登壇）

◎市長（庄司 厚君） ただいまの日下議員の御質問にお答えいたします。

大きな第1、沼海岸通りの土砂公害についての御質問でございますが、平成6年5月21日付で、議員の御意見のとおり、館山地区連合区長会と関係事業者9社で組織されました館山港臨港事業協同組合との間で生活環境保全を目的とした協定が締結されまして、毎年定期的に両者による協議が行われているところでございます。館山市といたしましても、港湾管理者でございます館山土木事務所と連携をとりながら、今後もこの協定が遵守されるよう努めてまいりたいと考えております。

次に、大きな第2、下町商店街のダンプ公害についての御質問でございますが、ただいま申し上げました館山港臨港事業協同組合と館山地区連合区長会との公害防止協定の趣旨に従いまして、適正な運用を図られるよう働きかけてまいりたいと考えております。

なお、道路の安全走行につきましては、館山警察署等と協議し、交通安全の徹底に努めてまいります。

次に、大きな第3、国民健康保険税についての御質問でございますが、税の引き上げにつきましては、医療費の増大に対応するものでございます。

まず、平成7年度における国民健康保険特別会計の決算剰余金見込額は1億3,956万6,000円でございます。そのうち、精算に伴いまして国及び支払基金へ2,258万円を返還し、残りの1億1,698万6,000円を国保税の軽減に充てようとするものでございます。

また、応益割額の引き上げにつきましては、国の指導によりまして、応能割額と応益割額の比率を50対50に近づけようとするものでございます。応益割額に係る案分率を改定し、1人当たりの調定額で5.32%の引き上げとしたところでございます。

なお、一般会計からのこれ以上の繰り入れは考えておりません。

次に、大きな第4、国民宿舎鳩山荘の民営化についての御質問でございますが、国民宿舎鳩山荘は、地域の観光振興を目的といたしまして昭和35年に開設され、昭和55年に改築してから16年を経過いたしました。この間、利用者のニーズの多様化や、周辺の施設が増改築されたことによりまして、利用率が最近低下し、経営面で厳しい状況下でございます。今後、館山市新行政改革大綱に基づきまして、公営企業経営合理化検討部会を本年度設置し、施設の役割、機能、運営方法等、多面にわたり検討を進めてまいります。

次に、大きな第5、元収入役のNTT株購入についての御質問でございますが、元収入役の株購入につきましては、地方自治法及び館山市財政調整基金条例に違反するものであると考えております。

また、損失につきましては、監査結果に基づきまして適正に対応してまいりたいと考えております。

以上でございます。

◎議長（辻田 実君） 18番日下さん。

◎18番（日下君敏君） 二、三ひとつ御質問を、再質問をさせていただきますが、先ほどの協定書というのはこれですけれども、よくできているんです。要すれば、公害を防止するために——ほとんど盛っているんです。第4条では、付近住民に迷惑のかからないように十分注意しなさいとか、夜間作業の騒音は特に幼児、老人の不眠を来し、進学児童の勉強に支障を生ずる。地域住民に迷惑のかからないようにいたしなさいというようなことが載っております。これでちょっと質問をしていきたいんですが、この再質問では、沼公害と下町交差点は大変関連していますんで、この1、2は一緒にひとつ再質問をさせていただきたいと思います。

私は基本的に、せっかくこれだけの立派な協定書ができているわけですから、この協定書をより忠実にお互いに守ってもらう。この場合は特に業者の方です。住民はやはり受け手でございますから、住民の安全、住民の環境の保全、これを第一にいたしまして、市の方もそういうことでいたしまして、これは業者の方に一生懸命自粛してもらわなきゃいかん、こういう

ふうと思うわけであります。

これにはちょっと盛っていないんですけれども、定期的な会合をいたしておるということでございますが、例えば去年あたり、あるいはその前、大体どのような定期的な協議をいたしているのか、お聞きいたしたいと思います。

◎議長（辻田 実君） 小沼経済環境部長。

◎経済環境部長（小沼 晃君） 毎年1回定期協議ということで、去年は——私どもの方の所管課は環境保全課になるわけでございますが、去年は出席をしておらないわけでございます。一昨年出席をしておるわけでございますが、当然その場でいろいろ、この協定の内容とか、実際の状況等について恐らく話し合いがあったということだと思いますが、特にこういう問題についてというような——大きな問題といいますか、そういうようなことはなかったというふうに聞いております。

以上でございます。

◎議長（辻田 実君） 18番日下さん。

◎18番（日下君敏君） ですから、1年では弱いんじゃないかなと思うわけです。ですから、ひとつ——月一というのは大変だろうと思いますけれども、三月に1遍とか、少なくとも半年に1遍この会合を——せっかく持っているわけですから、これを活用してやっていかなくちゃならんと思います。住民側としては連合区長会ということで区長さんになっておりますが、やはり地域の住民の声を吸い上げて、事実上のこういう具体的な——ほこりが何月何日来ているんだとかということは、区長さんには申しわけありませんが、住民がいないとわかりませんから、やはり住民の声というものをうまく区長さんの方へ——区長さんだけでなく、最終的には私は地域の方も区長さんと一緒に出ることが非常によろしかろう、こう思うわけですが、定期的な会合をひとつ——これはやはりどうしても行政に指導してもらわないとなかなか動きにくいものですから、そういうことで、年1回ではなくて2回とか、あるいは三月に1遍とか——ここには載っていないと思うんです。この協定書には年1回するとかということは。ですから、これは次期あるいは早い機会にでき得れば条文を改正して盛っていただきたい、こう思うんで

すが、どうでございましょうか。

◎議長（辻田 実君） 小沼経済環境部長。

◎経済環境部長（小沼 晃君） 先ほど日下議員さんの方からこの協定が遵守されているかというようなお話がございました。全くそのとおりかと思うわけでございますけれども、改めまして地域の皆さん、それから事業者の皆さんがもう一遍この協定書を確認をするということ。再確認でございます。それからさらに、この協定でまだ足りない部分があるとしたら、協定の見直しというようなことも含めて、今御指摘ございましたように、館山市が立会人ということになっておりますので、双方にそういう話は持っていく、このように考えております。

以上でございます。

◎議長（辻田 実君） 18番日下さん。

◎18番（日下君敏君） そういうことで、やはりこういう公害とか、あるいは——どうしても企業側の方は腰が引けていますから、といって、住民サイドは被害を受けるばかりで、もう相当被害を受けている、受けているとなりますんで、どうしても行政の方から中立的な立場でさらに御指導していただくというか、やっていただかないとなかなか難しかろうと思いますんで、ただいま御答弁をいただきましたものですから、ひとつそれを実行に移していただきたいと思います。

ダンプの問題も大変なんです、はっきり言って。これは、あそこの下町のところへ立ってもらうと、極端なことを言うと恐怖になります。といって、じゃ許可に基づいて土砂を運んでいるものを道路から締め出すというわけにもいかない。ですから、これはひとつこの協定書をもう少し広げて、そういう交通の——片道はこっちを通るけれども、向こうを通るときは空車にするとか、そういうルール、あるいは中に入ってきたら最徐行をする。現在のところ長須賀から下町というのは大変で、あそこは特に狭いものですから、この協定書の中にひとつそういうものも盛り込んでいただくということをお願いしたいわけです。特に通過地域の住民というのは大変なんです。ですから、この通過地域の住民の代表も——この協定ないし新しい協定ができる。

これを敷衍していただいても結構なんですが、地域住民の代表もこの会議に出られるような、そういうところでひとつ御検討して実行していただきたい、こういうふうに思うわけでございますが、いかがでございますか。

◎議長（辻田 実君） 小沼経済環境部長。

◎経済環境部長（小沼 晃君） ただいま住民の代表というようなお言葉でございましたんですが、実際には — この協定は連合区長会長さんが代表で契約対象になっておりますが、実際には下町までの7つの区長さんに当然御参加いただいているわけでございます。そういう意味で、それぞれの地区の住民の代表の方は一応参加されているというふうに考えているわけでございますが、ただ、ダンプは下町でとまるわけではございませんので、先ほどの質問にありましたように、通過する地域で必要な地区といいますか、その辺についても、先ほどもお答えしましたように、この協定の再確認とか見直しの中で可能性があるかどうか、その辺は検討をしてみたいと考えております。

以上です。

◎議長（辻田 実君） 18番日下さん。

◎18番（日下君敏君） 話がちょっと飛ぶんですけども、鈴木順子議員の御質問の中で、豊房育成牧場跡地、これについて今同意書が出ておる、こういうことでございますが、同時にこれは埋め立ての申請も出ているやにお聞きしたんですが、もし出ているならば、簡単で結構ですから — 発表できればですよ。どの程度の規模のものをどの程度でやるのか、お聞かせ願えればありがたいです。

◎議長（辻田 実君） 小沼経済環境部長。

◎経済環境部長（小沼 晃君） 先ほど鈴木順子議員さんにお答えしましたとおり、これは森林法に基づきます林地の開発許可でございます、手続的には。したがって、市の残土条例のいわゆる適用外ということでございます。私どもが知りましたのは、森林法に基づく開発許可申請には、下流にあります市の神余ダムの — これは水利権を管理しているわけでございますが、同意が求められてまいりました。それで承知したということでございます。

そのときに知りました範囲でお答えをいたしますと、事業区域の面積でございますが、22.8ヘクタールでございます。それから、開発に係る面積でございますが、9.6ヘクタールでございます。計画しております残土の処分量は100万 1,030立方メートル、こういう数字でございます。

以上でございます。

◎議長（辻田 実君） 18番日下さん。

◎18番（日下君敏君） どのくらいかけてこれを埋めるつもりですか。

◎議長（辻田 実君） 小沼経済環境部長。

◎経済環境部長（小沼 晃君） これは先ほど申し上げましたように林地開発でございますので、申請書は安房支庁の産業課の方へ出るわけでございます。まだ正式には出ていないということでございますので、はっきりした年数を申し上げるのはあれなんです、8年前後ぐらいというような、そういうことを聞いております。

以上です。

◎議長（辻田 実君） 18番日下さん。

◎18番（日下君敏君） おおむねそういうことだということになると、100万立米を8年間かけて埋めるわけです。そうすると、あそこからまた——プラスのダンプに8年間あそこを通られたら、これは迷惑を乗り越して、被害というか、とんでもない話になりますものですから、先ほどの御答弁いただいた協定書あるいは業者との話し合い、これは補償等々も含めましてしっかりしたものをやらしてもらわないといけませんものですから、ひとつその辺は御要望申し上げておきます。

やはりこれは住民サイドに立った行政をいたすということが庄司市長のモットーでございますから、市長さんも当然そういうふうにおっしゃっていると思いますが、市長の御意見を一言お聞かせ願いたいと思います。

◎議長（辻田 実君） 庄司市長。

◎市長（庄司 厚君） これから21世紀にかけましての生き方としまして、環境と人間との共存というのは非常に大事なことでございますので、そういう線に沿いまして、市民の幸福を願うのが政治でございますので、精いっぱい

い努力してまいります。

◎議長（辻田 実君） 18番日下さん。

◎18番（日下君敏君） あくまでも住民サイドに立った質問をさせていただいておりまして、そういうことで、すぐというわけにはいかんでしょうけれども、一步でも二歩でも前向きに、地元住民の声が入るような行政の方向にひとつ持っていったいただきたいと思います。

次に、国民健康保険税でございますが、これは確かにもう大変なことであるということはわかりますけれども、いわゆる税金の徴収率を見ましても、市民税は97%か98%いっていると思うんです。ところが、国保税は90%程度なんです。これ以上伸びていないということは、医療費の増大はわかりますが、既にもうこれは払えるぎりぎりの段階じゃないかということです。その証拠に、市長から先日提案理由の説明を我々は受けました。ここに議案第45号、国民健康保険税条例の改正をしますよということで細々と書いてあります。4割軽減に係る所得の算定は23万5,000円から24万円に引き上げた。だから、底が上がりましたよ。ここはちゃんとやっていますよ。第2が、課税限度額は48万円から50万円に2万円上げましたが、申しわけないけれども、法律では52万円ですよ。だから、まだ差がありますよ。ここまできれいに説明して、次が第3に被保険者均等割、世帯別平等割の案分率をそれぞれ引き上げようとするものでございます。この数字の説明がないんです。この数字の説明が入っていない。あとの内容は見てくださいということは、市御当局も市長も、これは少し上げ過ぎだな、上げ過ぎだから、ここで数字を挙げたんじゃないかとまずいから、これは後で資料を見てくださいよということで逃げたんだな、説明を受けてそう思いました。

この50% — 私これちょっと計算したんです。最初1.5%かなと思った。9,600円から1.5%掛けても1万4,400円にならない。15%かなというんで、9,600円に15% — 50%というのがどうしても出てこなかった。1.5倍して初めて9,600円が1万4,400円になるんです。これは普通の社会だったらとんでもない話です。しかし、これは何ぼ法律で — 難しいんですが、この応益応能というやつ。難しいんですが、要すれば50対50にならんかならん。

これは現実になるはずのものじゃないし、一挙に50%も上げるというのはどうしても納得いかないところでございます。だからこそ、やはり一般会計からの繰り入れは——ただいま市長の方は考えていない、こういうことでございますが、私はなすべきだと思うんです。

館山市の国保税は高いです、はっきり言って。簡単に言って——それではお聞きしますが、鴨川市、これは何ぼですか、1人当たり。鴨川市は幾らになっていますか。私の方で言いましょうか、時間の関係で。鴨川市は6万7,000円、館山市は7万5,000円です。富浦町、これが6万5,000円、館山市は7万5,000円です。鋸南町6万8,000円、館山市7万5,000円。富津市6万8,000円。非常に老人の多いと言われております、高齢者の多いという勝浦市6万8,000円。館山市はここまでいっていない。鴨川市よりも高齢人口が低いと思うんですが、それでも7万5,000円。これは高いです。だから、どうしたらいいかといえば、もう一般会計からの繰り入れしかないんです。

半澤市長さんという方は大変な受益者負担主義ということで、だめだと言っておったあの方が一般会計からの繰り入れに踏み切ったその裏には、もうこれ以上上げるのは心もとなくて一般会計からの繰り入れに踏み切ったと私は思っています。それで、一般会計からの繰り入れ——昭和63年から変わっていないんです、この繰り入れる理由が。個人と世帯主義のこの税金も、館山市は偉かったなと思うんですが、ほとんど抑えてきた。昭和63年から三、四年ずっと抑えてきたんじゃないですか。ここに至って突如50%上げたわけですが、これは普通段階的に上げてもらわなきゃいかんわけです。ですから、この昭和63年のルールでやってきた。ここにきて応益が上がった。ですから、ここではルールを改正してもやるべき筋だと思うんです。

別にこのルールにこだわることはないんです。例えば野田市——ここは館山市と比べ物にならないんですが、平成元年度より1億5,000万円、これを定額で繰り入れています。東金市は平成4年より3,400万円。なぜ3,400万円だけかわかりませんが、定額で繰り入れている。だから、館山市もこのルールプラスアルファ——これはもう立派な役人さんが多いわけですから——どうしても保険税が高過ぎるという声が満ち満ちています。古い言葉で



言いますと、苛政は虎よりも猛しと言いまして、余り税を取りますと、人食い虎よりもっと悪いことになりますよ。苛政は虎よりも猛し — この間読んできたんです。そういうことで、これはこの辺でやはりルールを改正してまでも一般会計からの繰り入れをすべきだというふうに思います。

次に、鳩山荘ですが、これはもうそろそろ国民宿舎としてのあれが終わっていると思います。市長の答弁でも、行革の中に入っているし、検討するということでございますから、これ以上再質問はいたしません。結局国民のニーズが変わってしまして — 今年度は実は後から私は赤字でしょうと言ったら、事務局の方から、いや、予定は40万円か何か黒になっていますというふうに来たんですが、じゃその根拠は何だ。去年 1,800万円も赤字を出して、その前が 900万円、その前が 800万円で、ことし突如なぜ40万円の黒になるんだ。それは、入ってくる人口ですか、利用客の人口を今までは2万 1,000人を見ていたんだけど、2万 3,000人で見ると。ことしになって 2,000人ふえるはずがありません。西岬の立派な休暇村もありますから。そういうことで数字合わせをしておるわけですから、もうそろそろ国民宿舎としての本来の目的が終わったんじゃないかな、こういうふうに思いますんで、これはこれで、御答弁のことで、再質問いたしません。

先ほど来やっております N T T 株でございます。これはどうも隔靴搔痒でございまして、実は私、最初に不明をおわびしなくちゃなんののですが、私自体も昭和60年以降監査委員をやっておりまして、これを見抜けなかった不明な監査委員の一人でございますものですから、実は私はこの問題については質問をすべきではないな、適格者じゃないなと思ったんですが、問題が問題で、これはもう避けて通るべきじゃないというふうに判断いたしましたものですから、反省を込めながら二、三お聞きしていきたいと思えます。

先ほどほとんど答弁いただきましたんで — いわゆる株を買う。この株を買うということは違法だということですが、どのくらい違法なんですか、はっきり言って。とにかく全くの真っ黒なのか、それともまあ仕方がないな、どっちなんですか。

◎議長（辻田 実君） 鈴木総務部長。

◎総務部長（鈴木完二君） ただいまの日下議員の御質問、明確に違法か、それとも違法かもしれないという程度の違法性であるかということであろうかと思います。法文上明らかに違法だというふうに考えております。

◎議長（辻田 実君） 18番日下さん。

◎18番（日下君敏君） 確実に違法である、こういうことですね。

そこで、館山市の方がただいま監査委員の方に監査請求をいたした。これは地方自治法第243条の2に基づいて監査請求をいたした、こういうことですね。こういうことになろうと思います、これは説明を受けていますから。第243条の2第3項、これによると、いわゆる収入役等々が損害を与えたと認めるときは、監査委員に対し監査請求するということになっております。認めたとき——つまり、今認めていないんじゃないくて、既に認めたということではよろしいんですね。

◎議長（辻田 実君） 鈴木総務部長。

◎総務部長（鈴木完二君） 先ほどのお話にございましたように、差損が今生じているわけでございます。その損害は現実的なものではないんじゃないかというお話もございますが、現実にはその株を処分した場合、相当額の損害が発生する。これをもって損害が発生したものと認めて監査請求をしたものでございます。

◎議長（辻田 実君） 18番日下さん。

◎18番（日下君敏君） この監査請求というのは私も最初軽く見ていたんですが、これは大変な話で、地方公共団体、簡単に言うと市長が監査委員に監査請求を法的にいたしますと、監査委員の方はその事実を監査して、賠償の有無、額、それを決定した上でしなくちゃならん。つまり、監査委員がすべてのことをやらなきゃいかん、こういうことでいいわけですね。いいかどうかだけお聞きいたしたい。

◎議長（辻田 実君） 鈴木総務部長。

◎総務部長（鈴木完二君） おっしゃるとおりでございます。

◎議長（辻田 実君） 18番日下さん。

◎18番（日下君敏君） それに基づいて監査委員の方から報告書が出た。

そうしますと、それを受けて館山市長が当該収入役に対して期限を定めて賠償を命ずる。手続的にはこういうことですね。そういうことでいいですね。

そこで私は — 議会としては本当はやらなきゃいかんだろうと思うんです、我々独自で。しかし、我々は調査権がありません。先ほど鈴木議員が百条委員会の提案を突如いたしました、私ははっきり言ってあれはまだちょっと — 少し先走ってはおらないか。議長に対しても言ってあるからということで本会議でやりましたが、私はいかがなものかと思います。というのは、この条項を見る限り、これは監査委員に全面的に任せてありますから、監査委員会の報告を待って市長が収入役に賠償額を請求する。それが不服ならば、その方は自分で訴訟を起こすなり、異議を申し立てればいいわけですから、ですから議会としては、やはり監査委員会との話し合いの中でこの部分はうちの方でやりましょうよというものの話し合いがつけば、議会として私はやるべきだ、こういうふうに思っておるわけであります。そういうことなんです。

そこで申しますと、はっきり名前を出しますと — 皆さんは名前を出さなかった。しかし、3人の収入役だということはもうはっきり言って皆さん知っているわけですから。私は、山田さんは少し外部に向かってしゃべり過ぎじゃないかと思うんです。監査委員の方にこれだけのことを話してもらわなきゃいかんのですが、私の知る限りで、房日新聞を見ますと、これは事後に私は報告しています、当時の半澤市長に。ところが、株価が落ちちゃったから、私はつい売りそびれてそのままになりました、こういうことを言っています。これは地元の新聞ですが、ここで読売新聞を引用している。読売新聞に、この山田収入役は自治体の株運用禁止は知らなかった。読売新聞に書いてあるかどうか知りません。読売新聞ではこう書いてあったと書いてある。つい手を出してしまった。こんなことは、収入役が通常の株売買をしてはいけないなんていうのはイロハのイの字です。知らなかったとか、これはあり得ない。

私ちょっと山田さんの記憶違いではないかなと思うのは、私の知っている半澤市長というのは公私のけじめのしっかりした人だ。館山市の歴代の市長

の中で — 今の市長も立派でございます。今の市長も立派で、差しおきますが、半澤さんという方は本当に1本、2本の指に入る人だと思っているんです。しかも、公私のきっちりした人ですから、もしこの山田さんがおっしゃったように実は株を買いましたと言え、即刻あなた売りなさい。これは朝に言って夕方売ってなきゃとんでもない話だというような、私はそういう人だと思うんです。たまたまこの方が亡くなってしまいましたから — 死者を冒瀆するような、こういう発言はいかなものかなと思うわけ。名誉のためにも、半澤さんという人はそういう人ではない。ですから、そういうことも — ここに議選の川名さんがおります。監査委員がおりますが、その辺ははっきりと聞いていただきたい。死者にこういう責任を持っていくなんていうのは本当にとんでもない話だと思ふわけでありま。そういうことで、これはしっかりと調べ願いたいと思ふわけでありま。どうでございましょうか、監査委員。

ちょっと私の漏れ聞いたところでは、全協その他で、三十何人の方に — 私もその一人ですが、聞いた。しかしながら、やはりこの根本は収入役がどういうことをしてきたかというのが一番の根幹でございまして、これはもうしっかり聞いてもらわなきゃいかんと思いますが、もう一度お聞かせください。

◎議長（辻田 実君） 山田監査委員。

◎監査委員（山田教和君） 日下議員のおっしゃるとおりでございまして、現在慎重に事実確認をしておるところでございまして。いましばらくお待ち願いたいと思ひます。

◎議長（辻田 実君） 18番日下さん。

◎18番（日下君敏君） 先ほど来金利のためにやっとなし申しておりますが、私は決してそんなことじゃないと思ふ。金利のためにやっとなしならば、先ほど言ったように名義を変えればいいわけ。変えれば配当金も入ってくるし、変えなかったということは、そこに自分としても — さっき言っている私は知らなかったということではなくて、自分が株を買うというのはまずいと思つたからこそ名義を変えなかったと思ふんです。そういうことですよ

ね。さらに、山田さんから次の渡辺さんに渡すとき — どういうことになっているか私知りません。これはまた監査の方で調べてもらわなきゃいかんのですけれども、そのときにきちっとやっておけば、これは大した金でなかったと思うんです。こんな今のような、2億円も含み損は出なかったと思うわけです。ですから、金利を稼ぎたいというようなことでは決してないんです。

じゃ、何だかということは監査委員の方に調べてもらうわけではありますが、そういうことで、どうもいろいろ — 我々とすれば、隔靴搔痒と申しますか、靴の上からかゆいところをかくような感じですが、とにかくここは監査委員に任せた以上、先ほど来監査委員の方で可及的速やか — 可及的にはいかないでしょうけれども、とにかく早い時期に、大変な御苦勞でございましょうが、やっていただいて、ひとつ円満に解決していただければと思います。

終わります。

◎議長（辻田 実君） 以上で18番議員日下君敏さんの質問を終わります。

続いて、20番議員神田守隆さん。御登壇願います。

（20番議員神田守隆君登壇）

◎20番（神田守隆君） 既に通告をいたしました5点についてお尋ねをいたします。大変お疲れのことと思いますが、私の質問は既にこれまでされた方とダブる面もあるかと存じますが、よろしく願いをいたします。

まず第1点は、収入役のN T T株購入による損失とその賠償責任についての問題でございます。去る5月2日に市長は監査委員に対し監査請求をいたしました。このことについて市長はなぜ監査請求をしたのか、その認識についてお尋ねをいたします。地方自治法では、市長は市の財産の管理について責任を負っており、損害が生じた場合にはその賠償責任を追及すべきことを義務づけ、その手続を定めています。その手続は、監査委員に対する監査請求で事実の確認、賠償責任の有無、賠償額の決定をするよう求めるようになっているわけでありまして。そして、この監査決定に沿って、市長は期限を定めて損害賠償を命ずることと定められているわけでありまして。そこで、市長は収入役の株購入について、自治法上の損害賠償の責任ありとの判断のもとに監査請求をしたものと思うのでありますが、いかがでありますか。

次に、監査委員に自治法上の賠償責任の要件はどうなっておるのかお尋ねをいたします。地方自治法第 243条の 2 は、特定の職にある者の賠償責任のあり方を職務上の義務違反の責任を追及するものとして規定しております。特に、賠償責任の成立の要件について、収入役などの会計職員の現金の管理の場合は、保管にかかわる現金の亡失、損傷があり、その発生について故意または過失があること、そして現金の亡失、損傷と損害の発生に因果関係のあることの 3 点はその賠償責任成立の要件とされているわけであります。注意すべき点は、これらの 3 点の要件が満たされていれば、それらの行為が法令の規定に違反しているかどうかにはかかわりなく賠償責任が成立するということであります。今回の N T T 株購入事件について、賠償責任のあり方を見ると、これらの地方自治法第 243条の 2 の規定に基づいて、すなわち違法性の成立いかんにかかわらず賠償責任が成立することになると思うのでありますが、いかがお考えでありますか。

次に、こうした事件の背景には、行政が十分住民にとって開かれたものになっていないという問題があります。市長は、市民とともに歩むという政治姿勢をたびたび強調されてまいりました。それは、何よりもまず市のさまざまな情報を市民に公開するということでなければなりません。それなしでは絵そらごとであります。実のないスローガンでしかないということになります。既に 3 月市議会でも条例の制定についてお尋ねをしたところでありますが、検討するということでありましたが、こうした事件が発覚した中で、その重要性や緊急性は一層切実なものがあります。また、国においても法案要綱案が発表され、けんけんがくがくの論議が新聞紙上でも論じられているところであります。私は、この情報公開条例は、まず知る権利を権利として明記し、また不開示情報の範囲について最小限のものにすべきことが行政の透明性を高める上で大事な点だと思います。プライバシー保護条例の制定とともに、公務員の職務執行にかかわる記録の官職、氏名の公開や、意思形成過程や行政執行にかかわる情報も公開の対象にする。また、企業との非公開特約規定の排除などが求められると思います。市長はこの情報公開についてどのように検討されておりますか。

次に、稲村城跡遺構の文化財としての意義とその保存についてお尋ねをいたします。去る6月6日、稲村城跡保存に関する請願書が市議会に提出されました。同趣旨の陳情書が市長あてにも出されているものと思います。この請願書では、稲村城跡は中世の城郭遺構として学術的にも大変貴重なものと指摘しています。特に、この10年ほどの間に中世研究の歴史学は長足の進歩を遂げました。このため、これまでよくわからなかった中世という時代の姿が具体的に認識できるようになってまいりました。特に稲村城跡は、16世紀初頭の天文の内訌で廃城とされ、放置されたために、その後の人工的な改変が何ら入ることもなく、今日まで伝えられました。いわば500年前のタイムカプセルともいうべきもので、現在の中世の歴史学の研究水準からすれば、歴史研究の宝庫ともいうべきものであります。これまで不明なままに置かれてきた私たちの郷土館山の中世の歴史に光を当てる大変重要な意義を持つ城跡ではないかと思うのであります。また、里見氏の研究という視点から見ますと、里見氏は、確実な資料が少ないために、研究が大変おくれている戦国大名であります。稲村城跡は、里見氏が戦国大名に成長していく基礎をなした城であり、里見氏研究にとって貴重な遺跡、遺構であります。市長及び教育長は稲村城跡の学術的な意義についてどのように認識をしておりますか。

次に、中世の城郭とは、いわゆる天守閣などの建築物のことを言うのではなく、山それ自体に人工的ながけや堀、土塁、くるわなど、さまざまな複雑な防御施設をつくり、山自体を巨大な城にすることです。城づくりは城普請とも言われ、現代風に言えば、建築工事というよりも土木工事です。稲村城跡とは、城山に複雑に構築されたさまざまな防御施設の総体であって、城山の山自体なのであります。館山工業団地（インダストリアルパーク）への進入路の現計画路線では、城山に複雑に設置されたさまざまな防御施設であるくるわや堀切りなどを大規模に切断してしまいます。現在の計画路線ではこのことは避けられません。私は館山工業団地そのものには賛成であります。地元で働く場を確保していくことは大事なことでと認識するからであります。特にこの工業団地は、従来型の分譲団地方式ではなく、自然環境との共存を図るオーダーメイド方式によるものとされました。自然環境

との共存は大変重要な点であります。しかし、同時に歴史的環境ともいうべき貴重な文化財との共存もこの工業団地にとって大事な点ではないでしょうか。館山の豊かな自然、そして豊かな歴史と調和した工業団地にしていくことこそ政治の責任ではないかと思うのであります。館山工業団地進入路の現計画路線の変更を図り、豊かな自然とともに文化の薫りあふれる工業団地に努力する責任が市にはあると思うのでありますが、どのようにお考えになりますか。

第3点、市の残土埋立規制条例の運用と慣行水利権の扱いについてお尋ねをいたします。岡田区の水利権者から、出野尾地区に計画されている残土埋め立て場に対し、不同意書を市に提出したと聞きました。市の残土埋立規制条例では、事業を開始しようとする者は市長に申請し、許可を受けなければならないとし、条例施行規則では、許可申請には隣地同意書、水利権者等の同意書の添付を義務づけています。同意書がなければ許可申請自体ができないことになっていると思うのであります。この規則でいう水利権者とは具体的にどのような権利者を指すものでありましょうか。

次に、残土処分場の許可申請には隣地同意書、水利権者等の同意書の添付を明記しているのでありますから、それがないとすれば、申請不備で同意書の添付を指導すべきですし、当然許可できないと思うのでありますが、いかがお考えになりますか。

第4点、中小企業事業者への無担保無保証人融資制度についてお尋ねをいたします。館山市中小企業資金の融資に関する条例の第3条は貸付要件について定めていますが、その3では、担保物権または規則で定める連帯保証人のあること。ただし、協会の行う特別小口保証制度の適用を受ける者はこの限りではないと、ただし書きで特別小口融資への無保証人融資を明記しているところであります。ところが、この条例実施のための規則では、第4条で、本資金の融資を受けようとする者は連帯保証人1人を付さなければならないと規定しております。条例では保証人を不要としているのに、その実施のための規則では連帯保証人を付すよう求めているのは条例違反の規則であります。直ちに条例どおり実施するとともに、条例違反の規則を改めるべきであ



ります。なぜ連帯保証人が必要だとお考えなのでありましょくか、お聞かせをいただきたいと思ひます。

次に、第5点、小中学校に緊急用人工蘇生器材を配備する問題についてお尋ねをいたします。かつて館山一中で部活動中の生徒が心臓発作で倒れ、死亡するという痛ましい事件がありました。本格的な部活動が始まる以前に心電図検査を受けていれば、あるいは未然にこうした事故は防げたのではないかとの反省のもとに、中学1年の3学期に実施してた心電図検査を小学校6年の3学期に変更いたしました。また、先生方の救急法の講習なども取り組まれているとお聞きするところであります。それらのことについては評価するところであります。しかし、昨年9月、船橋市の中学校でリレー練習中に生徒が心臓停止に陥り、教師の人工呼吸、酸素吸入で命が助かるという事件がありました。ここ船橋市では、中学校では心肺蘇生法の実習をするともに、すべての市内小中学校に酸素吸入器を配置していました。心肺停止事故は、最初の数分間の措置が生死を分けると言われます。これらの訓練と装備がこの生徒の命を救うことになったのであります。学校などにこうした救急救命機器が常備してあるか、そしてそれらを使える訓練をしているかが明暗を分けることになると思ひます。こうした中で、白浜町では既にいち早く小中学校に救急用人工蘇生器材を配備し、プール開きを前に操作法などの講習をしていると聞いております。千倉町でも今年度中にこれらの装置の配備をする計画と伺いました。児童生徒の安全上、また小中学校は災害時の避難場所ともなりますので、そうした面からもこの配備は意味のあることだと思ひます。いかがお考えになりましょくか。

御答弁によりまして再質問をさせていただきます。

◎議長（辻田 実君） 庄司市長。

（市長庄司 厚君登壇）

◎市長（庄司 厚君） ただいまの神田議員の御質問にお答えいたします。

まず、大きな第1、収入役のNTT株購入による損失とその賠償責任の問題でございます。第1点目、監査請求についての御質問でございますが、元収入役によります株の購入は、地方自治法及び館山市財政調整基金条例に違

反し、結果として購入時の株価と現在の株価に差額が出ております。これによりまして館山市に損害を与えたと認められますので、地方自治法に基づきまして、監査委員に当該事実の有無を確認し、賠償責任の有無及び賠償額の決定について求めたところでございます。今後につきましては、監査の結果を踏まえまして対処してまいりたいと考えております。

第2点目、収入役の自治法上の賠償問題につきましては、代表監査委員より御答弁申し上げます。

第3点目、情報公開により行政の透明性を高めることについての御質問でございますが、国におきましては、情報公開法の制定について、平成8年4月に行政改革委員会の行政情報公開部会から中間報告が出されております。さらに現在検討されているところでございます。館山市におきましては、現在平成9年度中の条例制定を目途に検討を進めております。

大きな第2、稲村城跡遺構の問題につきましてはの第1点目、これは教育長より御答弁申し上げます。

同じく稲村城跡遺構の第2点目、工業団地進入路の現計画路線の問題でございますが、館山工業団地は、安房地域の雇用の場や地域振興を図るため、千葉県企業庁が事業化したものでございます。既に工業団地区域内の用地の確保につきましては、地権者の方々の御協力をいただきまして、99%の取得となっております。

なお、進入道路のルートにつきましては、多くの案の中から地元を初め、J R千葉支社、千葉県公安委員会等関係者と協議いたしまして決定されたものでございます。

次に、大きな第3、残土埋立規制条例の運用と慣行水利権の扱いについての第1点目、水利権者等についての御質問でございますが、市の残土条例におきます水利権者とは、農業用水を管理、使用する総括的な管理団体をいいます。

第2点目、隣地同意書につきましては、市条例に基づき、隣接する地主の同意がなされております。また、水利権者等の同意につきましては、岡田、出野尾両地区との協定書で同意がなされております。

次に、大きな第4、中小企業者への融資制度についての御質問でございますが、特別小口融資制度の運用につきましては、館山市中小企業融資に関する条例が以前からつくられております。その第3条第3号ただし書き規定のとおり実施してまいります。

なお、本制度のより一層の周知を図り、利用の促進に努めてまいりたいと考えております。

次に、大きな第5、小中学校における救急用人工蘇生器材の配備、これは教育長より御答弁申し上げます。

以上でございます。

◎議長（辻田 実君） 高橋教育長。

（教育長高橋博夫君登壇）

◎教育長（高橋博夫君） 大きな第2、稲村城跡遺構の文化財としての意義とその保存についての第1点目の御質問でございますが、稲村城跡は、通説では初代義実から5代義豊までそれぞれの居城と言われております。また、中世城郭の形態をそのまま残す城跡としても紹介されております。昭和58年には千葉県教育委員会による学術調査が行われ、主郭部について規模、内容が報告されているところでございます。

次に、大きな第5、小中学校に救急用人工蘇生器材の配備についての御質問でございましたが、先ほど脇田議員にお答えしましたとおり、器材の配備につきましては検討いたしております。

以上です。

◎議長（辻田 実君） 山田監査委員。

（監査委員山田教和君登壇）

◎監査委員（山田教和君） 大きな第1の第2点目、自治法上の賠償責任についての御質問でございますが、地方自治法第243条の2の規定により、収入役の行為により損害が発生していること、故意または過失によること、因果関係があることの要件を満たす場合には賠償責任を課すことができると考えております。

以上でございます。

◎議長（辻田 実君） 20番神田さん。

◎20番（神田守隆君） N T T株の問題で、皆さん随分質問されてきて、私が最後ということになるので、重なるところがあるべくないようになっているんですが、一つは事実関係の問題として、収入役がこうした損害賠償責任を負うというのは、これは極めて自治法上明らかだというふうに思います。と同時に、この株は実際にはどこから買ったものなのか。この証券会社、具体的にどこなのか。そこの証券会社に売り込みに当たっての違法行為はなかったというふうに断定できるのかどうか。違法行為があったとすれば、それについての責任の追及はできるのかという — 法的な問題です。どういうふうにお考えになるか、お聞かせいただきたいと思います。

◎議長（辻田 実君） 永野収入役。

◎収入役（永野 修君） 昭和62年と63年、2年にわたって購入したわけですが、会社としましては東洋証券、水戸証券、野村證券から買いました。

なお、その後の売り込み等の関係につきましては、私自身は承知しておりませんし、事実関係の中でまた明らかになるのではないかと、このように考えております。

◎議長（辻田 実君） 20番神田さん。

◎20番（神田守隆君） 賠償責任ということになるわけですが、この損害賠償についての率直なところで一番皆さんが心配しているのは、負担能力ということの問題です。実際に高額な負担という中で、これの責任と言われても、現実に負担能力がなかったとしたらどうなるんだ、こういう問題が皆さんの中でもいろいろ議論されております。どういうふうにお考えになりますか。

◎議長（辻田 実君） 鈴木総務部長。

◎総務部長（鈴木完二君） この点につきましては、何度かお話ししておりますが、監査委員の監査結果を待って、それから検討ということにならざるを得ないというふうに考えております。

◎議長（辻田 実君） 20番神田さん。

◎20番（神田守隆君）　まず負担能力があるかないかというよりも、むしろ責任があるかないか、そのことをまずきっちりとすることが大事だというふうに思うんですが、そういうことでよろしいですね。

◎議長（辻田　実君）　鈴木総務部長。

◎総務部長（鈴木完二君）　結構でございます。

◎議長（辻田　実君）　20番神田さん。

◎20番（神田守隆君）　あと、損害についての認識の問題なんですが、これはよく言われるとおり、含み損——これが実際には幾らになるかという問題は売却時点でしかわかりませんが、通常含み損という問題があります。しかし、市がこうむった損害については——この含み損が損害であることは間違いないと思うんですが、同時にこの間の金利の問題、配当があったとしても、それを控除した金利、これも相当な金額に上るものだろうと思うんです。これは損害というふうに認識をされますか。

◎議長（辻田　実君）　鈴木総務部長。

◎総務部長（鈴木完二君）　この点は損害額の確定ということで監査委員にお願いしているところでございますが、その点についての考慮もなされるのではないかとこのように考えております。

◎議長（辻田　実君）　20番神田さん。

◎20番（神田守隆君）　監査委員にはそういう問題も含めましてぜひ御検討をお願いしたいと思います。そこに法律上難しい問題を含んでいることは十分承知しますが、そういうことを含めて視野に入れていただきたい。

それから、次に情報公開の問題ですが、市長さんが市長になるときに選挙で公約されたのがオンブズマンですか、オンブズマンということを言われて、住民にとってわかりやすい市政にしていこうということがそのときのニュアンスということで強調されたことだと思うんです。結果的に見ますと、就任したときにこのオンブズマンをやれば、もっと早くこういう問題が摘発できたり、あるいはもっと早い段階で措置ができたんじゃないかなということで、選挙で公約したにもかかわらず、実際にはその後そのことが立ち消えになってしまったことは大変今になっては残念なことだと思うんですが、そこでこの

情報公開という問題が非常に — 行政を常に透明にして、いつでも住民に疑問や異議がある場合に行政がわかりやすくしていく、だれでもそれについていろいろ問題があれば異議申し立てもできる、こういう制度を保障していくというのが情報公開です。これの威力は、今官官接待問題だとか旅費問題だとか、全国を席卷しているわけです。情報公開によって、いかに情報を透明化していくか、このことが本当に今必要なんだと思うんですが、そういう点で、平成9年から条例化をしたいというお話でありましたけれども、この条例化をする上で、下手な条例化をしますと、これが非公開情報を不当に広くしてしまうと、それは条例によって公開できませんという、条例が今度非公開のための論拠になってしまうという問題を持っているわけです。したがって、できる限り住民に行政の透明性を高めるということからすると、条例をつくるだけじゃなくて、条例の趣旨としては、基本的には不開示情報、見せないという情報はできる限り狭いものに具体的にしていかなきゃならん。例示して限定的にしていけばいいだろうと思うんです。そういうお考えになっておりますか。どういうふうにお考えになっていますか。

◎議長（辻田 実君） 鈴木総務部長。

◎総務部長（鈴木完二君） 行政情報の公開制度につきましては、基本的に公開が原則という立場に立って条例を検討していくことになろうかと思いますが、御存じのように個人情報等、公開が不適当な部分もあるのは確かでございます。そのような考え方で条例化についての検討を進めていきたいというふうに考えております。

◎議長（辻田 実君） 20番神田さん。

◎20番（神田守隆君） 私は率直に言いまして、千葉県はこの情報開示については後進県です、条例の中身を見ますと。県内の各市の条例ということももちろん下敷きになるんでしょうけれども、逗子市の情報公開条例は極めてやはりそういう点では先進的な内容を持っているんで、ぜひこの逗子市の情報公開条例を下敷きにしながら館山市の情報公開条例を検討していただきたいと思います。

次に、稲村城跡の問題でありますけれども、市長さんのお話なんですが、

現在の進入路の決定に当たっては、ＪＲだとか、あるいは公安委員会とか、あるいは地元とか、そういう協議をしながら現在の進入路を決めていったんだというお話でありますけれども、教育委員会とはこの問題についての相談はあったのでしょうか。

◎議長（辻田 実君） 高橋教育長。

◎教育長（高橋博夫君） この遺跡の問題につきましては、平成３年の８月１５日に進入路につきましては照会を私どもは受けておりまして、それにつきましては種々検討いたしまして、平成８年の１月３０日にその終了の確定を第１回目はいたしたところでございます。その後のことにつきましては、お話はあったかに伺っておりますけれども、正式な文書は今後出てくるだろうというふうに考えておるわけでございます。

◎議長（辻田 実君） ２０番神田さん。

◎２０番（神田守隆君） 文化財保護法に基づく文化庁長官への通知がされているというふうに認識してよろしいんですか。

◎議長（辻田 実君） 高橋教育長。

◎教育長（高橋博夫君） このことにつきましては、現在県の方との話し合いをしているところでございます。

◎議長（辻田 実君） ２０番神田さん。

◎２０番（神田守隆君） そうすると、通知はされたけれども、現在協議中だ。通知書は出したんですか、本当に。

◎議長（辻田 実君） 小沼経済環境部長。

◎経済環境部長（小沼 晃君） 正式に文書での照会はいたしておりませんが、口頭での協議はしておるわけでございます。御承知のように、まだある部分、測量できない部分がございます、測量をしてから正式の協議というふうに考えたところでございます。

以上です。

◎議長（辻田 実君） ２０番神田さん。

◎２０番（神田守隆君） 決まってから正式の協議じゃないんです。文化財保護法では、館山市など公共事業体が土木工事等を行う場合は、埋蔵文化財

の包蔵地において、計画の策定段階において、文化財保護法第57条の3第1項の規定により埋蔵文化財発掘の通知書を出して、文化庁長官と協議することになっている。これはいつの段階かという、もう計画の策定段階で協議しなきゃいけないということになっているわけです。その通知書が出ているんですかということを聞いているんです。

◎議長（辻田 実君） 小沼経済環境部長。

◎経済環境部長（小沼 晃君） 先ほどもお答えしましたとおり、文書でのそういう措置はしていない、こういうふうに思っております。

◎議長（辻田 実君） 20番神田さん。

◎20番（神田守隆君） そうすると、この文化財保護法の趣旨が全然生かされていないということなんです。協議して、そしてもう決まっちゃって、それで買収もかなり進んじゃう。ここに決めて、それで買収しちゃって、それから協議しました。正式の協議をやったら、だめですよとけっちんを食らったら、だれが責任をとるんですか。そういうことがあっちゃ困るから、計画の策定段階で協議しなさいよとなっているんです。それが文化財保護法だと思えるんですけども、いかがですか。

◎議長（辻田 実君） 高橋教育長。

◎教育長（高橋博夫君） お説のとおりでございます。

◎議長（辻田 実君） 20番神田さん。

◎20番（神田守隆君） 先ほどのお話では、現在の路線を決めるときに、JRと公安委員会等と協議した。しかし、教育委員会あるいは文化庁長官——具体的には千葉県教育委員会ですよね、実務の窓口になってやるのは。そこと協議をしてこの計画路線を決めたということではないわけですね。確認しておきたいんですが。

◎議長（辻田 実君） 小沼経済環境部長。

◎経済環境部長（小沼 晃君） 先ほどもお答えしましたように、一応口頭では協議をした。ただ、正式な協議については、測量ができないという、そういう事情がありまして、測量をしてから正式に協議、こういうふうな考えでいたということでございます。



以上です。

◎議長（辻田 実君） 20番神田さん。

◎20番（神田守隆君） 測量してからとかということじゃなくて、とにかく計画の段階でやりなさいということですから — 実際全国にたくさんあるんです、こういうことが。どんどん進めちゃってから、もうにっちもさっちもいなくなってから、ところがその文化財が極めて重要なものだとなった場合、計画は全部けっちん食らうんです。全国にたくさんあります、そういうのは。そういうふうになっちゃ困るということがあるからこそ、事前に教育委員会サイドとその辺の協議をするというのがこの文化財保護法の趣旨なんです。まだ買収はされていないわけですね、あの城山の部分については。城山の買収をしてから申請してなんてだめです。ちゃんとこれは法律に基づいて協議をしないと、計画はこれでいいのかどうかということを早速やって、通知を出して、そして協議をするという手続に入らないとだめなんじゃないですか。口頭で言ったとかというのは — 言った言わないはいけないんです。県の当局者は聞いていないと言っているんです。どっちが本当かわからないんだ、我々は。ちゃんとその辺は法律に基づいて、手続は決まっているんだから、そういうところはやはりちゃんとしていかないとはいけないんだと思うんです。そういう点では、この問題については県教委に言わせればつنبば棧敷だったということなんです。そうなっちゃうんです。そういうふうに言われちゃうんです。いかがですか。

◎議長（辻田 実君） 小沼経済環境部長。

◎経済環境部長（小沼 晃君） 恐らく県の教育委員会の方ではそういうふうにおっしゃると思います。

以上です。

◎議長（辻田 実君） 20番神田さん。

◎20番（神田守隆君） そこで、私ちょっと — この現在の路線を決める上で、JRとの問題はかなり重要なポイントだったのではないかなと思うんですが、仄聞するところによりますと、現在の踏切の上を高架にするというのが — これは案として、JRは現在の踏切を廃止することを前提にしない

とその計画にはオーケーを出せない、こういうＪＲの姿勢だった。したがって、現在の踏切部分を高架にする計画というのが実際にはうまくいかなかったんだ、こういうふうに話を聞いているんですけども、そういうことなんですか。

◎議長（辻田 実君） 小沼経済環境部長。

◎経済環境部長（小沼 晃君） そのとおりでございます。

◎議長（辻田 実君） 20番神田さん。

◎20番（神田守隆君） そうすると、ＪＲは何で踏切廃止が前提でないと高架を認めないということなんでしょうか。というのは、富浦でも、あるいは金谷でも——この近所で高架にしてしながらその下に踏切があるというのはたくさんあります。ところが、ここではそういうことをＪＲが主張している。そのためにその案が案として成り立たなかった。そのために貴重な文化財を破壊するような路線を選ばざるを得なかったとすれば、ＪＲの責任は極めて大きいということになると思うんですが、どうしてそういうことを言うんですか。

◎議長（辻田 実君） 小沼経済環境部長。

◎経済環境部長（小沼 晃君） ＪＲとしてはやはり高架というのが望ましいということでございます。これはやはり列車往来というようなことを考えた場合に、高架にするということはＪＲとしても望ましいわけですが、その際、やはり踏切は高架にした際には解消をしていく、こういうふうな考えを私ども聞かされているわけでございます。

それから、今お話のございました、ほかの地区でも実際にそういう高架があるのに残っているじゃないかという今御指摘がございましたが、私どもの方もそれはＪＲの方にぶつけたわけでございますが、旧国鉄時代についてはそういうことがあったかもわからない。ただし、今後はそういうことはあり得ない、こういう回答でございました。

以上です。

◎議長（辻田 実君） 20番神田さん。

◎20番（神田守隆君） 地域の住民にとって、あの踏切は生活道路そのも

のなんです。耕運機でこの高架を渡れなんて言われれば困ります。だから、実際には高架がつくられていても、実際の生活道路としての踏切は、これはやはり役割が違うんですから、残されているというのはその地域の住民の立場に立てば当たり前のことですし、旧国鉄のときには話は聞けたけれども、ＪＲになったら話は違うんだ。随分高慢なことを言うんですね。ＪＲになったらそれができない。何か法的な根拠があるんですか。

◎議長（辻田 実君） 小沼経済環境部長。

◎経済環境部長（小沼 晃君） 法的な根拠があるかどうかということは、私どもの方も確認はいたしてございません。ただ、当事者でありますＪＲ千葉支社のしかるべき立場の人からそういう説明があった、こういうことでございます。

以上です。

◎議長（辻田 実君） 20番神田さん。

◎20番（神田守隆君） これはＪＲのしかるべき立場の人に館山市のしかるべき立場の人がちゃんと話をしないと話ができないことなのかな。場合によっては、これはこの館山市だけにとどまらない。この工業団地は安房全体ですし、それにこの文化財の問題というのはもっと広い、全国的な意味合いもかかってきますから、そういう立場の人に話してもらわないとならないんじゃないかな。この問題は非常にＪＲが過小評価しているんでないかなと思うんですけども、市長さん、その辺でお考えございませんか。

◎議長（辻田 実君） 庄司市長。

◎市長（庄司 厚君） この問題は当地域だけの問題じゃなくて、全国的な問題でございまして、要するにＪＲも安全ということで、いかに踏切を減らすかというのが今の全国的な傾向。ですから、踏切の改修をやる場合には必ず付近の踏切を減らすことと条件が文句なしについて、この場合、オーバーステップしてまいります、オーバーステップの道路の下に今までの、既存の踏切を認めることは絶対にあり得ない。住民にとりましては、既存の踏切の方が――これはもう文句なしに生活道路ですから、そういうことは地元の住民として認めることはできない。こういうのがいろいろ交錯して進んできたとい

う報告を受けています。おかしいとは思いますが、そういう方針だということでございます。

◎議長（辻田 実君） 20番神田さん。

◎20番（神田守隆君） 市長さんはおかしいという認識を持っていますが、実際にこれはJRに働きかけていく。必要なやっぱり段取りもとって、必要な人にも働きかけて、そういう必要な立場の人に必要な方法でやることというのは考えられないですか。いかがですか。

◎議長（辻田 実君） 庄司市長。

◎市長（庄司 厚君） 今市内何カ所かで踏切の改修の問題、それから——踏切の改修といいますか、大型の車が通れるように幅を広げてくれなんていうのが出ていますが、そういう問題を含めまして総合的に——今までもやっていたけれども、強力な交渉を繰り返していきたいと思います。

◎議長（辻田 実君） 20番神田さん。

◎20番（神田守隆君） 基本的にはやっぱり稲村城跡の重要性といいますか、その辺の認識がまだまだなのかなと私は思うんですが、この稲村城跡の学術的な意味ということについては非常に重要な問題だと思います。中世の研究史、郷土の歴史という点から見ると、非常に重要な——いわば、先ほども言いましたが、タイムカプセルともいうべき状況といいますか、中世の安房の、あるいは館山の姿というのを非常にきれいに、鮮やかに浮かび上がらせてくると思いますか、そういうのが稲村城跡のわけです。ただ、そのことについてはいろんな論争がたくさんあり得ることで、いろんな意見、いろんな考え方が出てくると思います。それが今の中世研究の非常に発達してきた段階ですから、そういうことで、ぜひこれは城跡の保存といいますか——これは今わかることと、これを保存することによって10年後にこんなことがわかるとかという、そういう性格のものなんです。この10年間の間に物すごく進歩しましたから、恐ろしいほどで、そんなことまでわかるのかというような状態ですから、ぜひこれは保存という方向を考えていただきたいと思います。

残土の規制条例の問題と慣行水利権にかかわる問題でありますけれども、

水利権者については、岡田区との協定をもって一応水利権者の同意とみなしますよ、こういうようなお話でありました。それはおかしいんじゃないか。というのは、区長の判こ、区長の同意をもって水利権者の同意とみなすというふうになりますと、これは区長は大変です。水利権というのは個々の人の持っている財産権と同じようなものですから、人の財産を区長の判こ一つで同意しちゃったということになっちゃうことですから、これは法的に見て、区長の責任としては人の権利や財産についてどうこうできるという立場じゃないですから、余りにも区長に対して責任が重過ぎる。したがって、区との協定という問題は、それは協定です。それを市が水利権者との同意とみなすというところに問題があるわけです。これは別のものなんです。また、別のものとして扱わなければおかしいです。水利権者等との同意書と言っているんですから、それは解釈としても——それをそういう解釈でやったんだとしたら、その解釈をしていること自身に責任があります。いかがですか。

◎議長（辻田 実君） 小沼経済環境部長。

◎経済環境部長（小沼 晃君） 今の区長がというふうな御質問でございますが、私どもの方は区長が単独でということでは考えておりません。恐らく区の中で当然協議があったものというふうに考えております。そういうふうにもまた聞いております。

それといま一つは、それを区がやったのは、それを同等とみなすのはおかしいということでございますけれども、地域によりましては、必ずしも水利組合ということではなく、区がそういう水利権を総括的に管理をしている地区が当然あるわけでございます。したがって、名称は区でありましても、実質的に水利権を管理、総括しているところであれば、区でもってその内容に水利に及ぶ条項が入っておれば、一応同意というふうに私どもはみなしたわけでございます。

以上でございます。

◎議長（辻田 実君） 20番神田さん。

◎20番（神田守隆君） 区の集会で一応そういうふうにして同意をした。しかし、そこでは、岡田の区では水利権はないんだ、そういうふうに言って、

これは水利権にかかわる問題ではないんだというふうな説明もあったというふうに聞いているんです。私は議事録があったわけじゃないから、議事録の内容を見ているわけじゃないですから、恐らくその集会でも議事録なんかをとっているわけじゃないでしょうけれども、でもそういう質疑があって、水利権については岡田区にはないんだというお話があった。その限りでは私正しいと思うんです。水利権というのは岡田区にあるんじゃないくて、個々の人が持っているものですから、慣行水利権というのは、したがってここで決議することは水利権にかかわる同意ではない。だとなれば、水利権の同意は個々の方の同意書をもらわなきゃいけないわけだ。ところが、そういう中で、話が違うじゃないかということで岡田区の方が不同意書を出しているというふうにも聞いているわけです。それは当然です。市に対して水利権については同意しませんよ、こういう内容で市に不同意書を提出している。そういうふうになるのは当たり前だと思うんです、別のことなんですから。いかがですか。

◎議長（辻田 実君） 小沼経済環境部長。

◎経済環境部長（小沼 晃君） 今の御質問ですと、個々に水利権がある。私どもの考え方といたしましては、水利権というのはいわゆる排他的に公水を利用する権利ということで、まれには個人ということもあるかと思いますが、恐らくはその地域の人たちだろうと思うんです。そういう意味で、あくまでも個々の皆さんの権利というのはそういう組織の中で構成されているものでありまして、やはり水利権者としての意見とか、そういうふうなものは組織として対抗するものではないのかな、このように考えております。

以上です。

◎議長（辻田 実君） 20番神田さん。

◎20番（神田守隆君） それは違うんじゃないですか。水利権というのはその利用にかかわる農地です。農地を持っている個々の人にその水利権はあるんです。ですから、農地が売買されれば、その農地に伴って、その農地を耕作する権利のある人がそれに伴う水利権も取得するんです。違いますか。

◎議長（辻田 実君） 小沼経済環境部長。

◎経済環境部長（小沼 晃君） 個々にそういう水利権を持っている一つの組織の構成員ということは私理解できます。建設省の住宅局長通達というのがあるわけですが、これはやはりそういう漁業組合とか水利組合等にいわゆる同意といいますか、それを求める際の一つの見方でございますけれども、例えばそういう同意を求める — 調整を求めるといいますか、同意を求めるといいますか、個々の構成員全員との調整を要求するのではなく、組織との調整で足りる、こういうふうな通達もあるわけでございます。私どもの方の残土条例も、今まで、神田さんから今御質問ありましたんですが、お答えしましたとおり、あくまでも組織という、そういう中で私どもも考えているところでございますので、御理解をいただきたいと思います。

以上です。

◎議長（辻田 実君） 以上で20番議員神田守隆さんの質問を終わります。

以上で通告による一般質問を終わります。

散 会 午後4時47分

◎議長（辻田 実君） 本日の会議はこれにて散会といたします。

なお、明15日から17日まで議案調査のため休会、次会は6月18日午前10時開会とし、その議事は各議案の質疑を行います。

この際申し上げます。各議案に対する質疑通告の締め切りは6月17日正午でありますので、申し添えます。

◎本日の会議に付した事件

# 1 行政一般通告質問